



駒澤大学教育後援会

# 会報

2026  
Vol. 194



## CONTENTS

### 駅伝 [箱根・全日本]

- 特別企画 二十歳の抱負
- サークル紹介 ハンドボール部/釣りクラブ
- 学部・学科紹介 文学部 歴史学科
- 学生たちを静かに見守る百周年記念講堂
- オータムフェスティバルを終えて

## 会報

2026  
Vol.194

サークル紹介 ハンドボール部 ▶14～15ページ

## ◆ 巻頭挨拶……………4～5

小島泰道(学校法人駒澤大学理事長)……………4  
井垣達也(駒澤大学教育後援会会長)……………5

特集1

## ◆ 駅伝「箱根・全日本」……………6～12

- プレイバック箱根駅伝……………6～11
- 第102回箱根駅伝を終えて 藤田敦史(陸上競技部監督)……………7
- 激闘を終えて 1区 小山翔也／2区 桑田駿介／3区 帰山侑大／4区 村上響
- 5区 安原海晴／6区 伊藤蒼唯／7区 谷中晴／8区 山川拓馬
- 9区 菅谷希弥／10区 佐藤圭汰／主務 松井寛翔……………8～11
- プレイバック全日本大学駅伝(全日本大学駅伝応援記)……………12

## ◆ 特別企画 二十歳の抱負……………13

柴田真緒(仏教学部2年)／石井太一(法学部政治学科2年)

特集2

## ◆ サークル紹介……………14～17

- ハンドボール部 石長素成(主将)／萱野聡彦(副主将)／池上将起(選手)
- 〔取材を終えて〕教育後援会文化部取材班……………14～15
- 釣りクラブ 石崎匠(代表)／瀬在俊貴(副代表)／田嶋更紗(部員)
- 〔取材を終えて〕教育後援会文化部取材班……………16～17



サークル紹介 釣りクラブ ▶16～17ページ

特集3

## ◆ 学部・学科紹介 文学部 歴史学科……………20～29

- 松下拓也(法学部法律学科卒業)
- ◆ 特別企画 第27回 地方で活躍する駒大卒業生の皆さん……………18～19
- [学科主任挨拶]寺前直人(歴史学科主任・教授)……………20
- [学科紹介]中野達哉(日本史学専攻・教授)／中村淳(外国史学専攻・教授)
- 寺前直人(考古学専攻・教授)……………21
- [教員ピックアップ]熊本史雄(日本史学専攻・教授)／佐々木真(外国史学専攻・教授)
- 角道亮介(考古学専攻・准教授)……………22～24



学部・学科紹介 文学部 歴史学科 ▶20～29ページ

【本文中の表記について】

GMS学部GM学科:

グローバル・メディア・スタディーズ学部

グローバル・メディア学科

### 【駒澤大学教育後援会とは】

教育後援会は、駒澤大学・大学院に在学する学生のご父母(保証人)を会員として構成されています。大学と家庭との連絡を図り、教育的効果の向上に資すると共に、会員相互の親睦と福祉に寄与することを目的としております。

特集  
4

●「このゼミに注目!」浅倉直美(日本史学専攻・准教授)／飯田洋介(外国史学専攻教授)

藤野一之(考古学専攻・准教授)……………25～27

●「学生たちの声!」金森仁美／小林優太／松田漣士／土田哉汰／深井雄太／正木日彩……………28～29

◆学生たちを静かに見守る百周年記念講堂……………30～31

◆学内イベントピックアップ オータムフェスティバルを終えて……………32

●小野寺凜(「オータムフェスティバル2025」実行委員長・経済学部 商学科3年)

◆大学だより……………33～39

●KUサポートからのお知らせ……………33

●学生支援センター厚生課からのお知らせ

●高等教育の修学支援新制度について／令和8年度 新設奨学金のご案内……………34

●ホームページのご案内

●自転車損害賠償保険等への加入について／国民年金保険料「学生納付特例」の申請について

●「父母寄稿欄」への投稿について／イベント申込サイトとイベント参加申込ヘルプサイトのご紹介……………35

●令和7年度「学業成績表」について(教務部)……………36～37

●協定校への短期語学セミナー参加のすすめ(国際センター)／2026年度学費等納入のお知らせ(財務部)……………38～39

◆父母寄稿……………40～43

●教育後援会の委員活動を終えて4年間を振り返る……………40～41

●今村裕(総務部 部長)／秋永幹夫(厚生部 部長)／関安則(文化部 部長)

●一泊参禅研修会体験記 姫浦尊(厚生部)……………42

●新年賀詞交歓会報告 北川達也(総務部)……………43

◆教育後援会だより……………44～47

●令和7年度 教育施設等充実助成金 支援事業のご報告……………44

●令和8年度 教育懇談会について

●令和8年度 定期総会・駒沢キャンパス構内見学会のご案内……………45

●会員アンケート用紙……………46

●令和8年度 年間行事予定のご案内／編集後記……………47

学校法人駒澤大学  
理事長

## 小島 泰道



# 「柔軟心」と「人間力」 変化の激しい時代を生き抜く

教育後援会の皆様におかれましては、日頃より本学の教育・研究活動、ならびに学生生活の支援に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、井垣達也会長をはじめ各委員の皆様方には、本会の円滑な運営に多大なるご尽力をいただいておりますこと、重ねて深謝申し上げます。

さて、現代社会は「予測困難な時代」と言われて久しく、AI技術の急速な進みやグローバル情勢の変化など、私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変容しております。このような不確実な時代において、社会へ羽ばたく学生たち、そして学び続ける学生たちに真に求められる力とは何でしょうか。それは、単なる知識の多寡やスキル  
の優劣だけではありません。いかなる環境の変化にも適応し、他者と協調しながら信頼を築いていく、人としての総合的な力、すなわち「人間力」にほかなりません。この「人間力」について、本学の建学の理念である曹洞宗の禅の教えから、二つの言葉を引いてお話ししたく存じます。

一つ目は「柔軟心」です。文字通り、柔らかい心を持つことを意味します。しかし、これは単に優柔不断であることや、周囲に流されることではありません。強風にあおられたとき、堅い大木は抵抗して折れてしまうことがありますが、竹や柳はしなやかにその身をたわませ、風がやめば元の姿に戻ります。禅が説く「柔軟心」とは、自分の固定観念や過去の成功体験、「こうでなければならぬ」という思い込みにとらわれることなく、目の前の状況をありのままに受け入れ、変幻自在に対応できる「しなやかな強さ」のことです。社会に出れば、理不尽なことや予想外の困難に直面することもあ  
るでしょう。その際、心を閉ざして折れてしまおうのではなく、状況を受け入れ、そこから最善の一手を導き出す力。この精神的な「しなやかさ」こそが、これからの時代を生き抜くための最強の武器となります。本学での学びを通じて、学生たちが知識とともに、この「柔軟心」を養ってこれていることを願ってやみません。

二つ目は「威儀即仏法」です。これは、日常の立ち居振る舞い(威儀)そのものが、仏の教え(仏法)の実践であるという教えです。坐禅を組んでいるときだけが修行ではありません。食事の作法、廊下の歩き方、靴のそろえ方、あるいは他者への挨拶や言葉遣い。そうした日常の些細な行いの一つひとつに、その人の心のありようが表れます。AIがどれほど発達し、業務の効率化が進んだとしても、最後に人を動かす、信頼を勝ち得るのは、その人の「たたずまい」や「誠実さ」です。「誰も見ていないところで手を抜かない」「相手を敬い、丁寧な言葉(愛語)をかける」。こうした当たり前のことを徹底できる姿勢が、周囲に安心感を与え、リーダーシップや人望といった「人間力」の土台となります。本学が目指す「智慧」と「慈悲」の実践は、遠い理想の世界にあるのではなく、この日々の具体的な振る舞いの中にこそあるのです。

ご承知の通り、大学教育にはご家庭と大学の連携が不可欠です。禅には「同事」という、相手と同じ立場に立ち、苦楽を分かち合う言葉がございます。教育後援会の皆様と大学が「同事」の精神で手を取り合い、学生の可能性を育てていけるよう、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

結びに、卒業を迎える学生たちの前途が洋々たるものであること、そして在学生たちが「柔軟心」を持って次年度も健やかに学業に励むことを祈念いたしますとともに、会員の皆様のお祈り申し上げます。ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

合掌



駒澤大学教育後援会  
会長

井垣 達也

# 後援会活動を支える 全ての方々に心より感謝！

会員の皆様には、日頃より教育後援会の活動に深いご理解とご協力を賜り、本当にありがとうございます。

在任中は、全国の保護者の会員の方々をはじめ、後援会委員の皆様、地方支部の皆様、大学教職員の皆様、同窓会・駒澤会の皆様方のご協力に支えられ、会長の任を無事終えることができました。心より感謝申し上げます。

思い返せば、自宅が駒澤大学野球部グラウンドの近くで、練習風景を目にしており、ご縁があったと感じ活動に参加しました。後援会活動を通じて、全国の保護者の方々と親睦が深められ、貴重な日々を過ごすことができました。令和7年度は、学生の夢の実現に向けて、学生支援と保護者親睦を軸に、学生と保護者の「よりどころ」となる後援会を目指して活動してまいりました。

6月の教育懇談会には、全国で約千人の保護者の方の参加があり、アンケートでは満足度100%の高い評価を得ました。10月には出雲駅伝応援とともに鳥取県支部55周年記念大会を開催、駒澤大学陸上競技部OBの糟谷氏記念講演「櫻が繋ぐキセキ」が行われ、会場は感動の渦となりました。また、長野・

三重・熊本の3県支部合同の構内見学会も行われ、わが子が通う大学の様子を実感できました。

11月に三重県支部の方々と応援した全日本駅伝では、2年ぶりに王座を奪還しました。また一泊参禅研修会(大本山永平寺)には、全国から九十人を超える保護者の方々が参加され、駒澤大学の建学の精神「禅の心」の本質に触れることができました。1月の新年賀詞交歓会の参加者は三百人を超え、大学教職員の方々、保護者同士の親睦を一段と深めることができました。

後援会は、皆様の声を大学に届けて、その想いを実現することも大きな役割です。昨年、静岡の教育懇談会に参加された保護者の方から、県支部設立の意向を受け、10年ぶりとなる新たな県支部「静岡県支部(学生数四百三十二人)」が誕生いたしました。さらに広島県の教育懇談会においては、ひろしま男子駅伝に出場する選手を応援したいとの声をいただき、同窓会広島県支部との合同応援が実現する運びとなりました。

さまざまな行事にご参加いただいた多くの保護者の会員の方々、誠にありがとうございました。わが子が駒澤大学

の門をたたいてくれたことで、知り合うことができた保護者同士のご縁に本当に感謝しています。

最後に、この1年間後援会の多くの行事の運営を担っていただいた総務部・厚生部・文化部の委員の皆様、幅広い対応をいただいた大学の事務局・教職員の方々、そして後援会の活動を支えていただいた全ての方々に心より感謝いたします。

駒澤大学のますますの発展を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。





©水上俊介

特集  
1

# プレイバック箱根駅伝

1月2日(金)・3日(土)に開催された箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)。

全日本大学駅伝との二冠こそ果たせませんでした、10区の佐藤選手が区間新記録を達成するなど意地を見せました。

そんな今年の大会を振り返るべく、陸上競技部の藤田敦史監督や部員たちに感想を寄せてもらいました。

区間	区間	距離(km)	選手名	区間タイム	区間順位	総合タイム	総合順位
往路	1	21.3	小山 翔也	1時間00分48秒	5	1時間00分48秒	5
	2	23.1	桑田 駿介	1時間06分19秒	8	2時間07分07秒	4
	3	21.4	帰山 侑大	1時間00分51秒	2	3時間07分58秒	3
	4	20.9	村上 響	1時間03分24秒	19	4時間11分22秒	7
	5	20.8	安原 海晴	1時間11分38秒	7	5時間23分00秒	7
復路	6	20.8	伊藤 蒼唯	56分50秒	2	6時間19分50秒	6
	7	21.3	谷中 晴	1時間03分38秒	9	7時間23分28秒	7
	8	21.4	山川 拓馬	1時間04分34秒	4	8時間28分02秒	7
	9	23.1	菅谷 希弥	1時間09分17秒	10	9時間37分19秒	7
	10	23.0	佐藤 圭汰	1時間07分31秒★	1	10時間44分50秒	6

★=区間新記録

# 第102回箱根駅伝を終えて

©水上俊介



駒澤大学  
陸上競技部 監督  
藤田 敦史

平素より教育後援会の皆様方には、たくさんのご支援および温かいご声援をいただいております。こと、心より御礼申し上げます。

さて、年初に開催されました第102回箱根駅伝は、チーム一丸となって戦いました結果、往路7位、復路3位、総合6位で終えました。当日はたくさんの方の温かいご声援をいただき、誠にありがとうございました。

今季のチームスローガンは「原点と夢」藤色の挑戦に決まり、大学三大駅伝三冠を目標に篠原前主将の後を引き継ぎ主将に就任しました山川が中心となり、新体制のスタートを切りました。

秋冬の駅伝シーズンに向けた夏合宿におきましては、主力選手の故障などがあり、駅伝に向かうにあたり一抹の不安もありましたが、主将の山川がチームを鼓舞し、中間層の選手たちが一生懸命に練習に励んだ結果、駅伝シーズンには昨年以上の選手層を作り上げることができました。主力選手が故障で夏合宿に参加できなかったことで、他の選手たちに自覚が芽生

えた結果だと思えます。

そしていよいよ迎えました出雲駅伝では、前半で健闘はしたものの、良い流れに乗ることができず5位に終わりましたが、続いて行われた全日本大学駅伝では、前半から良い流れに乗れ、5区伊藤の区間新記録の走りもあり、2年ぶり17回目の優勝を成し遂げることができました。この優勝は、出雲の悔しさを全日本へぶつけるべく、チームとして努力してきたことが結果した瞬間でもありました。

そして、年初の第102回箱根駅伝では、1区3年生の小山が先頭と20秒差の5位で襷をつなぐと、エースが集う2区では2年生の桑田が他大学のエースたちとしのぎを削り、順位をひとつ上げ、4位で3区4年生の帰山へ襷を渡しました。3区の帰山は、前半からハイペースで前を追いかけ、途中で腹痛がありながらも区間2位の好走で順位をひとつ押し上げ、3位で4区3年生の村上へと襷をつなぎました。4区の村上は、落ちて着いて前を追いかけ、序盤で2位へと浮上しましたが、脚に痛みが出るアクシデントがあり、順位を落としながらも懸命に走り抜き、5区3年生の安原に襷を渡しました。5区の安原は5区初挑戦ではありましたが、順位をキープする走りで往路7位のゴールとなりました。

往路はアクシデントがあり、先頭の青山学院に大きく離される結果となりましたが、復路ス

タート6区の4年生伊藤が、区間記録に迫る素晴らしい走りで6位へ浮上、7区2年生の谷中は順位をひとつ落とすも懸命に走り、8区4年生の山川主将へ襷を渡しました。主将の山川も懸命に前を追いかけ、6位との差を大きく詰める走りを展開、9区2年生の菅谷も箱根駅伝初出走ながら諦めずに前を追い、7位で10区4年生の佐藤へと襷を渡しました。10区の佐藤は、前と大きな差がある状況でも諦めずに前を追いかけ続け、中盤で6位へ浮上、そのまま総合6位でゴールいたしました。佐藤は区間新記録となるタイムで区間賞を獲得する走りで、チームの順位を押し上げてくれました。

このたびの箱根駅伝では選手のコンディションを良い状態に整えることができず、その結果、区間配置につきましても、攻めのオーダーを組めなかったことが敗因です。戦力がありながらも、チームを戦える状態に仕上げるのができなかった今回の失敗から多くのことを学び、今後に生かしていきたいと考えております。今回、厳しいチーム状況の中でも、走った十人の選手はもちろんのこと、補員メンバー六人、サポートに回ってくれた部員たちは、最後まで諦めずに前を向き、ゴールを目指してくれました。また、岩井部長、大八木総監督、コーチングスタッフ、サポートスタッフ、OBの皆様方にも多くのご支援をいただき、今大会も無事に襷をつなぐことができました。多大なるご支援をいただき

ました方々に、改めて感謝申し上げます。

今後は新主将の村上を中心に新たなチームを作っていくこととなりますが、ここまで駒澤の大黒柱となってきた4年生が抜け、新たな柱となる選手を育成していくことからのスタートとなります。今後も強く逞しいチームを作り上げることを強く意識し、私自身も駒澤大学のために力を注いでいく所存でございます。今後も引き続き、変わらぬご支援をいただけましたら幸甚に存じます。

末筆ではございますが、駒澤大学教育後援会の今後益々のご発展と皆様方のご健勝・ご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶の言葉とさせていただきます。今後とも何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

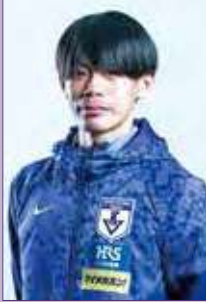
©水上俊介



チーム一丸となって、厳しい箱根のコースを駆け抜けた“チーム・駒澤大学”。  
ここでは、そんな藤色の襷でつながれたメンバーたちの声を紹介します。

## 1区

©水上俊介



経済学部 経済学科3年

**小山 翔也**

箱根駅伝を走らせていただき、改めていろいろな方々の支えのおかげで走ることができていると感じました。今回は、主力の選手が万全の状態ではなかったため、1区を走る自分がいかにいい位置で襷を渡せるかが大事だと考えて走りました。

結果は1位と20秒差の区間5位でした。区間賞を狙っていたため、あまり満足できる結果ではありませんでしたが、最低限の役割は果たすことができたのかなと思います。

来年度からは副主将になるため、今まで以上に自覚と責任を持ち、自分が結果を出すことで周りもついてきてくれると思うので、まずはトラックシーズンで目標としているタイムをクリアできるようにしていきたいです。



©月刊陸上競技

## 2区

©水上俊介



経済学部 経済学科2年

**桑田 駿介**

今年は大きなケガもなく練習にはしっかり取り組めたものの、試合ではなかなか思うような結果を出せませんでした。練習で感じていた手応えをレースで発揮できなかったことは、自分を見つめ直すきっかけになりました。

箱根駅伝では、アクシデントもあった中で、花の2区を走らせていただき、仲間の思いや監督の声に支えられながら、自分らしい粘る走りができたと思います。この経験は、これからの競技生活において大きな自信になると思います。

今後は、練習の成果をしっかりレースにつなげ、結果にこだわりながらチームに貢献できる走りをしていきたいです。



©月刊陸上競技

## 3区

©水上俊介



経済学部 現代応用経済学科4年

**帰山 侑大**

私は4位で襷を受け取り、先頭に立つことを目標に走りました。思い切ってハイペースで飛び出しましたが、中盤で腹痛に苦しみ、3位で襷を渡す形となってしまいました。力不足を痛感し、悔しさは残ります。しかし、沿道で応援してくれた家族をはじめ、仲間や友人、ファンの皆さまの声援は大きな力となり、走っていて本当に幸せだと感じました。特に4年生の山口、森重による給水は印象に残っています。最後の箱根駅伝は楽しく、かけがえのない経験となりました。

大学や指導者、家族、仲間など多くの方々のおかげで走り抜けた4年間は私の宝物です。心より感謝申し上げます。



©月刊陸上競技

# 激闘を終えて

## 4区

©水上俊介



文学部 地理学科3年

### 村上 響

日頃より駒澤大学陸上競技部を応援してくださりありがとうございます。

箱根駅伝4区を走らせていただきました。3年の村上響です。今回の箱根駅伝では自分の調整不足により、レース走行中に足に痛みが出てしまい、チームの順位に貢献することができない走りとなってしまいました。その時にできる最善のオーダーで責任のある区間を任せていただいたにもかかわらず、走りに応えることができず本当に申し訳ありません。

新たな1年間では陸上競技部のキャプテンを務めさせていただくこととなりました。自分に与えられたチャンスだと思い、1年間精進してまいります。キャプテンとして不甲斐ない姿にならぬよう、そして箱根駅伝での借りを箱根駅伝の場で返せるよう、努めてまいります。今後とも駒澤大学陸上競技部へ応援のほど、よろしくお願いいたします。



©月刊陸上競技

## 5区

©水上俊介



経済学部 商学科3年

### 安原 海晴

このたびの箱根駅伝におきましては、2日間にわたり沿道やテレビを通して多大なるご声援をいただき、ありがとうございました。

今回は急きょ山の5区にて出走させていただくこととなり、十分な準備期間を設けられないままがつつけ本番のような形で山登りに臨む結果となりました。最低限のタイムでまとめることはできたものの区間上位者との差は大きく、日頃の準備の重要性を改めて強く実感しました。

来年度は最高学年となり、これまで以上にチームを引っ張る立場になります。一日一日の練習を大切に、悔いの残らない1年にできるよう、期待と責任を胸に日々精進してまいります。



©月刊陸上競技

## 6区

©水上俊介



法学部 政治学科4年

### 伊藤 蒼唯

今年の箱根駅伝では、3度目となる6区を走らせていただきました。区間賞と区間新記録を目標にしてレースに臨みましたが、区間新記録まで3秒足りず、区間2位の結果に終わりました。目標には届くことができず悔しさはありますが、あの1時間の中で自分自身の100%を出すことができた振り返って感じています。

総合成績では6位と、目標の総合優勝はできずに最後の箱根駅伝が幕を閉じましたが、卒業後はこれまで以上の結果が出せるように日々取り組んでいきたいと思ひます。



©月刊陸上競技

# 激闘を終えて

## 7区

©水上俊介



経済学部 経済学科2年

### 谷中 晴

1月2日、3日と、多大なるご支援とご声援をありがとうございました。

結果は7区9位で、区間賞を取って前との差を少しでも縮めるという目標には届かず、むしろ先頭の青学との差を広げてしまい、非常に悔しい結果となりました。課題は多くありますが、特にけがが多い点が大きな課題です。今回の箱根駅伝でもその影響が大きかったため、けがをしない体づくりと体への理解、練習を継続していくことの大切さを改めて感じました。

今後は、これまでチームを支えてきた強い4年生が抜けるため、自分自身がさらに成長し、力でチームを引っ張り、信頼される選手の一人になりたいと思います。

©月刊陸上競技



## 8区

©水上俊介



経営学部 経営学科4年

### 山川 拓馬

今回最後の箱根駅伝を走り終え、この4年間、個人としては良い走りを一回もすることができなかったため、悔しさが残りました。しかし今回の箱根を通じて、準備がどれほど大切なのかを改めて実感することができました。チーム状況としては12月頭に故障者が同時に出て、不安を抱えてのレースとなりました。さらに、自分自身も故障して、最後の最後にチームに迷惑をかけてしまい、それがかなり影響する結果になったことをとても情けなく感じています。

その中でも多くの応援を受け、なんとか走りきることができたので、これからは継続と準備を大切に、実業団で活躍して少しでも貢献できるよう頑張っていきたいです。

©月刊陸上競技



## 9区

©水上俊介



経済学部 経済学科2年

### 菅谷 希弥

今回、初めて箱根駅伝の9区を走らせていただき、幼い頃から抱えてきた大きな夢を実現することができました。沿道の声援や仲間の思いを背負って走る経験は、言葉では表せないほど貴重なものでした。しかし結果としては、自分自身が目標としていた走りには届かず、実力不足を強く痛感するレースとなりました。

今年は個人としてもチームとしても悔しさの残る結果でしたが、この経験と気持ちを決して忘れず、来年こそは箱根駅伝優勝という目標を達成できるよう、より一層努力を重ねていきます。今後とも陸上競技部への温かいご声援をよろしくお願いいたします。

©月刊陸上競技





©水上俊介

## 10区

©水上俊介



経済学部 経済学科4年  
**佐藤 圭汰**

今回、箱根駅伝で10区を走らせていただきました。まずは、2日間にわたり絶え間なく熱い応援をありがとうございました。結果は総合6位と目標には届きませんでしたが、チームとして理想のオーダーが組めない状況の中でも、全員が最後まで諦めずに走り切ることができたのは良かったと思います。

箱根駅伝の1カ月前に大腿骨を故障して、チームには本当に迷惑をかけてしまいました。一時は走ることを諦めかけましたが、さまざまな方々の支えのおかげで、なんとか走れる状態まで戻すことができました。結果としては10区で区間新記録を出すことができましたが、本来であれば往路を走る予定だったこともあり、個人としては決して満足のいく結果ではありませんでした。それでも、少しはチームに貢献できたのではないかと思いますし、最後まで諦めなくて良かったと感じています。ただ、チームとしてはとても悔しい結果となってしまったので、後輩たちには自分たちの分まで、来年こそ頑張ってもらいたいと思います。

駅伝競技には一区切りをつけ、卒業後は海外を拠点にトラック種目をメインに活動していく予定です。ずっと世界の舞台を夢見てきたので、その夢をかなえられるよう、これからも努力していきます。

©月刊陸上競技



## 主務

©水上俊介



経営学部 市場戦略学科3年  
**松井 寛翔**

第102回箱根駅伝では、たくさんのご声援、誠にありがとうございました。また、日頃より多大なるご支援いただき、重ねて感謝申し上げます。

今大会では、初めて運営管理車に乗車させていただきました。選手時代からの夢であった箱根駅伝の舞台を、マネージャーとして、選手と共に戦えたことは、貴重な経験となりました。結果としては、目標にしていた優勝には届かず、悔しい結果となりました。自分がこの1年間経験したこと、また、この悔しい結果を糧に、来年の箱根駅伝、そして、三大駅伝で必ず、駒澤の強さを証明できるように精進してまいります。

引き続きご声援のほど、よろしくお願いいたします。



©水上俊介

# 全日本大学駅伝応援記

— 全日本大学駅伝対校選手権大会 —

2025年11月2日(日)に開催された秩父宮賜杯 第57回全日本大学駅伝対校選手権大会。駒澤大学は、2年ぶり17回目の優勝を達成しました。今回も多くのご父母や関係者が応援に駆け付けましたが、代表して教育後援会 総務部の大谷さんに応援記をお寄せいただきました。



教育後援会  
総務部  
大谷 しおり

熱田神宮から伊勢神宮までの8区間106.8キロメートルをつなぐ全日本大学駅伝が今年も開催されました。私たち教育後援会は大会前日、東京を出発しバスで三重県へ向かいました。伊勢神宮外宮にて三重県支部の皆様と合流した後、松阪市内のホテルにおいて交流懇親会を開催しました。参加者の中には陸上部の選手の親御さんもおられて、翌日のレースに向けた選手たちへの温かな応援の思いが語られ

終始和やかな雰囲気の中で交流が行われました。大会当日は、爽やかな秋晴れのもとスタートを切りました。文化の日を含む連休と重なり、伊勢神宮周辺は多くの観光客でにぎわっていましたが、スタート前には必勝祈願のご祈祷を執り行いました。ゴール付近では、駒澤大学のファンという親子連れの方々から声を掛けていただいたほか、卒業生や関係者と思われる方々ともお会いし、改めて駅伝を通じた駒澤大学のつながりの強さを実感することができました。2年ぶり17回目の優勝を目指す駒澤大学は、5区の伊藤選手が区間新記録となる走りで見事に立つと、7区では故障から復帰した期待のコース

佐藤選手が力強い走りを披露しました。最終8区では山川選手が安定した走りで見事にリードを守り切り、見事に優勝を果たしました。私たちはゴール前の歩道にて、駒澤大学応援指導部ブルーベガサスの方々とともに声援を送りました。各大学が熱のこもった応援を繰り広げる中、最終ランナーの山川選手が先頭で姿を現した瞬間には、とても大きな感動がこみ上げました。この走りが、2カ月後に迫る箱根駅伝へどのようにつながっていくのか期待が膨らみます。伊勢の地で力強い走りを見せてくれた選手の皆様、そして大会を支えてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

区間	距離(km)	選手名	区間タイム	区間順位	総合タイム	総合順位
1	9.5	小山 翔也	27分21秒	4	27分21秒	4
2	11.1	谷中 晴	31分14秒	3	58分35秒	3
3	11.9	帰山 侑大	33分38秒	3	1時間32分13秒	1
4	11.8	安原 海晴	34分28秒	5	2時間06分41秒	4
5	12.4	伊藤 蒼唯	35分01秒	1★◇	2時間41分42秒	1
6	12.8	村上 響	37分22秒	2	3時間19分04秒	1
7	17.6	佐藤 圭汰	50分26秒	3	4時間09分30秒	1
8	19.7	山川 拓馬	57分23秒	3	5時間06分53秒	1

★=区間新記録 ◇=区間賞

# 2026 二十歳の抱負



法学部 政治学科 2年

## 石井 太一

無事に二十歳を迎えることができました。思い返せば、幼少期から今日に至るまでの二十年間は、多くの方々に支えられながら、人として成長してきた時間でした。これまで支えてくださったすべての方々に、心から感謝いたします。

現在、私たちを取り巻く社会はめまぐるしく変化しており、人と人とのつながりが希薄になりつつあります。だからこそ、私は交流することの大切さを強く感じています。

大学で所属している内海ゼミでは、他のゼミ生や世田谷区、駒澤大学の先生や職員の皆様、消防署など、多くの方々と協働して活動しています。その中で、人と関わり、協力しながら目標を達成する楽しさと素晴らしさを学びました。この経験を通して、将来どんなに忙しくなっても、人とのつながりを大切に、楽しく交流できる人間でありたいと強く思いました。

大学を卒業後、社会の一員として新たな生活を送る中で、喜びや楽しさだけでなく、忙しさや苦しさ、孤独を感じることもあると思います。そんな時こそ、互いに支え合い、協力し合うこと大切さを忘れず、今のつながり、そしてこれから出会う人々との縁を大事にしながら生きていきたいと思っています。



仏教学部 2年

## 柴田 真緒

このたび無事に二十歳を迎えることができました。まず、今まで私のことを支えてくれた両親に、そして、出会ってきたすべての方々に感謝を申し上げたいと思います。

私は大学では落語くらぶで活動をしており、この2年間、落語を通して多くの出会いに恵まれました。特に本年度は大会に出場するなど落語を披露する機会に多く恵まれ、見てくださったお客様から「良かった」「面白かった」といった言葉をいただくことができました。落語の活動を通して人々を笑顔にすることの楽しさに気づくことができました。一方、学業では仏教についての学びから派生して、信仰というものがどのようにして人々を支えてきたのかを研究したいと考えています。

大学生活の中で仏教の教えと落語に触れ、落語は人の心を豊かにし、信仰というものは人生の厳しい局面を支えているのだと実感しています。私はこのような経験をした新成人として、より多くの人を笑顔にできるような大人になりたいと考えています。そのためにこれからも芸を磨くことを怠らず、学問の研鑽と仏教の教えの実践に努め、充実した学生生活を送れるよう邁進していきます。

特集  
2

# CIRCLE

サークル  
紹介

# Pick Up!

## ハンドボール部

- 創立年:1972年
- 部員数:26人



### ハンドボール部とは？

ハンドボール部では1～3年生合わせて26人(選手21人、マネージャー5人)が在籍しています。駒澤大学玉川キャンパス第2体育館で、火・金・土の週3回活動しています。現在、弊部は関東学生ハンドボールの3部リーグに所属しており、2部昇格を目指して日々精進しています。

ハンドボールは高校から始める人が大半で、弊社でも大学から始めた人はほぼいません。ハンドボールを体育の授業で経験したことのある人もいると思いますが、競技としてのハンドボールは防具も着けずに立ち向かうような、けがの多い激しいスポーツです。しかし、試合を見るたびにその迫力とスピード感を肌で感じることができるのは、ハンドボールの魅力だと思います。ハンドボール部では学生主体で練習を組んでいます。そのため、一人ひとりが成長しながら仲間と切磋琢磨していく環境がここにはあります。

### 年間活動予定

- 4～6月 ○ 春季リーグ戦、オフ
- 7月 ○ 練習
- 8月 ○ 夏合宿
- 9～10月 ○ 秋季リーグ戦、オフ
- 11～12月 ○ 練習
- 1月 ○ 練習
- 2～3月 ○ 冬合宿、追いコン



# VOICES OF MEMBERS [ 部員の声 ]

選手  
経済学部  
経済学科3年  
池上 将起

## 仲間と共に成長

私が所属するハンドボール部の魅力は、雰囲気の良いことです。楽しく、かつ真剣に練習へと取り組める環境が整っています。

入部当初は強豪校出身の同期が多く、不安もありましたが、仲間と共に「どうすれば上達できるか」を考えながら、前向きに練習に取り組むことで、着実に成長することができました。日々の練習では気持ちの切り替えを意識し、互いに声を掛け合いながら取り組んできました。その結果、現在はスタメンとして試合に出場しています。

楽しさが、努力を継続する原動力になる部活です。

副主将  
経済学部  
現代応用経済学科2年  
萱野 聡彦

## 後悔を残さない一年に

現在の私たちのチームは、中心となっていた先輩方が引退し、目標とするリーグ戦もまだ先であるため、モチベーションの維持が難しい状況にあります。しかし、この時期にこそ意識を高く持ち、日々の練習に真剣に向き合えるチームが、最終的に勝てるチームになると考えています。

私は自分の強みである「声」を活かし、練習中の雰囲気づくりや積極的な声掛けを通して、プレー以外の面からもチームを支えていきたいです。私たちの代が終わるとき、後悔が一つも残らないよう、これからも高い意識で活動に取り組んでいきます。

主将  
経済学部  
経済学科2年  
石長 素成

## 心から熱くなれる場所

この活動は、私にとってかけがえない居場所です。仲間と共に目標を追いかける日々は、他には代えがたい充実感に満ちています。

もちろん楽しいことばかりではなく、壁にぶつかることもありました。しかし、苦楽を共にした仲間がいたからこそ、今の私があります。これからも立場にとらわれすぎず、一人の選手として純粋にプレーを楽しみ、仲間と一緒に成長していきたいです。



## 取材を終えて

玉川キャンパスは、体育会系サークルの練習拠点で、取材に行くとき独特の緊張感がみなぎっています。ハンドボールは、サッカーとバスケットの要素を合わせたような競技ですが、競技自体の激しさは、両者を上回っていると感じました。

駒大は3部リーグ所属なので、経験者もおらずに緩いサークルなのではないかと予想しておりましたが、全く違い、練習は真剣そのものでした。部員も経験者のみで、きちんと指導者もいるとのことでした。競技のルール上、ボールを強くにぎれるように松脂や両面テープを巻くことが許容されていたり、接触プレーが容認されていたりと、格闘技のようなパワーあふれるプレーが見られました。私はサッカー観戦をしますが、少し触れただけで、自ら倒れてファールをアピールすることが常識でしたから、衝撃でした。

1試合30点程度というのは、多すぎず少なすぎず、見応えがあります。今回の取材を契機にハンドボールの試合を観戦したくなりました。



# CIRCLE サークル 紹介 Pick Up!

## 釣りクラブ

- 創立年:1966年
- 部員数:23人



### 釣りクラブとは?

釣りクラブでは定期的に川や海に出かけ、小規模ながらも楽しく活動を行っています。

私たちの活動の最大の魅力は、釣った魚をその場で焼いて食べたり、家に持ち帰って自分でさばいたりして味わうことです。自分で釣った魚の味は格別です。川辺で魚が焼き上がるのを待つ瞬間は、時間を忘れてリフレッシュできる至福のひとつです。また、春や秋には溪流釣り、冬にはワカサギ釣りなど、活動を通して季節の移ろいを感じることができます。

部員の中には大学から釣りを始めた人も多く、初心者や道具を持っていない人も楽しめる環境作りを心がけており、「釣りをしてみたいけれどきっかけがない」「自然の中で思い切りリフレッシュしたい」という方にはぴったりのサークルです。もちろん経験者も大歓迎です。

この記事を見て興味を持った方は、ぜひ一度活動に参加してみてください!

### 年間活動予定

- 4月 ○ サークルフェスティバル
- 5月 ○ 新入生歓迎会
- 6月 ○ 溪流釣り
- 7月 ○ 海釣り
- 10月 ○ 溪流釣り
- 11月 ○ オータムフェスティバル
- 2月 ○ ワカサギ釣り

# VOICES OF MEMBERS

[ 部員の声 ]

副代表  
経済学部  
商学科2年  
瀬在 俊貴

## ゆったり釣り時間

定期的に釣り堀へ行ったり、海釣りに行ったりします!

ゆったり釣りを楽しめるサークルで初心者も多く、分からないことは先輩が優しく教えてくれるので安心です。部員同士の距離が近く、終始和やかな雰囲気です。ゆったり楽しく過ごしたい人にはぴったりの環境だと思います!



## 取材を終えて

4年生一人、2・3年生ゼロ!「卒業したら廃部の危機!」から、1年生大勢加入で存続の危機を免れた釣りクラブ石崎部長に取材させていただきました。

活動は自由参加。誰かと競い合うこともなく、和気あいあいと、緩やかな雰囲気。季節によって海や渓谷、釣り堀で、ただ自分のペースで釣り糸を垂れる。BBQ施設が併設されている渓谷では、釣った魚をその場で堪能。自然の中で仲間と過ごす楽しい時間。

取材を終えて感じたことは「仲間に入りたかった!」でした。慌ただしい日々の中で、忘れていたものがそこにありそうな気がします。

釣りクラブの歴史は古く、OB会との交流もあるそうです。OBの皆さんにとっても楽しいひとときであることは想像できますね。



部員  
文学部  
歴史学科4年  
田嶋 更紗

## ひとりの時間も大切に

駒澤大学釣りクラブの魅力は、なんといってもんびりした時間を過ごせることだと思います。

私は、釣りクラブの体験で初めて秋川のマス釣り場に行きました。釣り竿の使い方も分からない状態でしたが、魚が餌を食べる瞬間のキタ!という感覚が楽しくて、何匹も釣ることができました。釣り竿を垂らしているときは自分と向き合って集中することができるので、みんないる中で、パーソナルスペースを確保できます。釣りクラブでは、まるで坐禅のような体験をすることができますよ。

都会の喧騒から離れて、大きな自然と釣りクラブのマイペースな空気を感じてみませんか?



代表  
文学部  
歴史学科4年  
石崎 匠

## 人それぞれの楽しみ方で

一口に釣りといっても、場所や季節で狙う魚は変わります。川ではヤマメやニジマス、海ではアジなど、その時々に合わせて釣り方を工夫するのがとても面白いです。釣りクラブでは活動場所も多様なので、初心者はもちろん、経験者でも毎回新鮮な体験ができると思います。

また、黙々と獲物を狙うのが好きな人や、魚が釣れるまで、あるいは焼けるまでの談笑を楽しむ人など、部員のタイプもさまざまです。自分の好きなスタイルで無理なく参加できるのが良いところです。

一度参加すれば絶対に楽しいと思えるサークルなので、少しでも興味があればぜひ参加してください!



# 地方で活躍する 駒大卒業生の 皆さん

第27回

輝く卒業生に  
*Close Up!*



## 経験を地域の力に 大隅で歩む新しいキャリア



株式会社松下  
取締役  
**松下 拓也**さん

駒澤大学 法学部 法律学科卒業(2016年3月)

私は現在、鹿児島県大隅地域で、  
家業であるホテルの企画・運営・財  
務を中心に携わりながら、地域活性  
に関わる活動にも積極的に取り組  
んでいます。ホテルを軸とした仕事  
に加え、地域の観光振興や交流人口  
の拡大に向けた取り組みを行うなど、  
「地元をより良くする」という視点  
を持って日々働いています。地元高校  
を卒業後、駒澤大学へ進学し、卒業  
後は海外での生活や県外での勤務を  
経て地元へ戻ってきた私にとって、今  
の活動はすべての経験が繋がった  
結果だと感じています。

私が駒澤大学へ進学したきっかけは、

ボクシングでの推薦入学でした。大  
学では競技に全力で取り組み、日々  
の厳しい練習に打ち込む一方で、法  
学部法律学科を専攻し、学問にも真  
剣に向き合いました。試合に向き合  
う緊張感や、勝敗によって評価が大  
きく変わる厳しさの中で磨かれた粘  
り強さは、社会に出てからも困難を  
乗り越える力となっています。また、  
法律の学びを通して身につけた「物  
事を筋道立てて考える力」や「多面  
的に判断する視点」は、ホテル運営に  
おける会計判断や企画立案、さらに  
地域活動での調整業務などにも生か  
されています。大学生活は忙しくも  
充実したもので、今思い返しても大  
きな財産です。

卒業後は、より広い世界に触れたい





という思いから、カナダへワーキングホリデーで渡航しました。異国での生活は、日本の常識が通用しない環境であり、言語や文化、働き方の違いに何度も戸惑いました。しかし、その都度自分で考え、行動し、乗り越えることで、視野の広がりや自立心を身につけることができました。その後、フィリピンでも生活し、カナダとはまた違った価値観や社会の仕組みに触れたことで、多文化を理解する姿勢がより深まりました。海外での生活は、私にとって人間的に成長する大きなきっかけとなり、今でも大切な糧になっています。

帰国後はスポーツジムでインストラクターとして勤務しながら、店舗運営も担当しました。利用者の方と日々接する中で、「身体だけでなく気持ちにも寄り添う」という仕事の本質を学びました。その後、宿泊業界へ転職し、ホテルの現場でサービスの奥

深さや、チームで働くことの重要性を改めて感じました。宿泊業は、お客様の滞在そのものをデザインする仕事であり、細かな気配りや変化への対応力が求められます。この経験が、家業に戻った後の仕事にも大きく生きています。

コロナ禍をきっかけに地元へ戻り、家業のホテルで働くようになりました。現在は企画・運営・財務など幅広い業務を担当し、ホテルという場が地域にどのように貢献できるのかを日々考えています。また、複数の団体に所属し、イベントや観光企画、若者が集う場づくりなどにも取り組んでいます。地域の方々と協力しながら、少しずつ形になっていく瞬間は大きな喜びであり、地方で働くやりがいを感じています。

社会人になると受動的な仕事も増えますが、私はこれまでの経験を糧に、これからも主体的に地域と向き合い、挑戦を続けていきたいと考えています。大学時代の厳しい練習や学び、海外で得た価値観、多様な職場での経験は、すべて現在の自分を支える土台になっています。

地方で働くという選択肢は、想像以上に可能性に満ちています。皆さんも、自分の経験や想いを生かせる場所がどこにあるのか、ぜひ広い視野で探してみてください。





文学部 歴史学科主任  
教授

寺前 直人

# 文学部 歴史学科について

歴史学科は1929年に専門部を歴史地理科に改組して発足した学科であり、4年後の2029年には設立百周年を迎えることになる。本学なかでも伝統のある学科です。1967年には歴史学科として独立、2004年には日本史学、外国史学、考古学の3専攻を設置しました。専任教員17名と非常勤講師92人という充実した体制で、さまざまな時代や地域、テーマの講義を歴史学科に在籍する約920人の学生にむけて実施しています。また、史資料の取り扱い方や調査方法など実践的な内容を少人数のゼミや実習などで教育しています。

歴史学科の特徴としては、ゼミ活動や実習などを通じた学生と教員の距離の近さが挙げられます。国内外での史資料の調査や発掘調査に合宿などを行いながら教員と学生が丸となって取り組み、地域に根ざした研究活動を経験するなかで、学生は現代社会における歴史学の実践や、史資料の保存・活用の困難さと楽しさを学んでいきます。

本学では1年次より歴史学科の日本史学、外国史学、考古学のいずれかに所属しますが、例年実施している新

入生を対象としたアンケートでは日本史学・外国史学専攻の学生は中学高校の教員志望が目立ち、考古学専攻では学芸員志望の学生が数多くいます。専門性の高い志望をサポートするために、歴史学科では学科卒業生の現職教員をまねいて、懇談会や模擬面接などを実施します。このようなサポートを受けて、数多くの卒業生が公立や私立の教員に採用されており、今年4月からも多くの卒業生があらたに教壇に立っています。また、学芸員等の立場で全国の文化財保護行政や博物館に所属し、地域の発掘や史資料の保存や活用に奮闘する卒業生もたくさんいます。

学生の大半は一般企業に就職しますが、歴史学科での実践的な学び、自分でみつけた史資料に基づき、客観的な分析をふまえて論理的に歴史を復元するという経験は、社会においてさまざまな場面でも有効です。AIなどが普及していくこれからの社会においても、一次情報を自ら汗をかいて手に入れて、それを分析、活用するという歴史学の営みを経験したことは、これからの卒業生にとっても大きな武器になるでしょう。

## 日本史学専攻について

文学部 歴史学科 日本史学専攻教授 中野 達哉

日本史学専攻には、およそ400名の学生がおり、全国でも最も大きな規模となります。専任教員も、古代・中世・近世・近代・現代の各時代に計8人を配置し、また、各時代・分野の専門的知見をもった方に、非常勤講師をお願いしています。

本専攻では、1年次に基礎演習と記録史料学、2年次に史料講読と時代史を専門科目として配置し基礎的な知識を身につけたうえで、3・4年次にゼミに入り(演習受講)、希望する時代・分野について、より深く学び、卒業論文を作成していきます。このほか最先端の研究を講義する特講や分野史の授業も設けています。

令和5年度より本専攻および外国史学専攻では、副コース「アーカイブズ基礎講座」を設けました。現代、国や自治体、各企業や団体はコンプライアンスの遵守、社会への説明責任が求められる、証拠となる記録の管理が重要となっています。アーカイブズは、歴史的価値のある公文書等を保存・管理・公開するもので、本講座は文書管理の基礎知識を学ぶことを目的としており、指定科目を履修すると「コース修了証」が授与されます。



## 外国史学専攻について

文学部 歴史学科 外国史学専攻教授 中村 淳



本年度4月現在、1年生から4年生まで計三百十四人の学生が在籍しています。

1年次の必修科目、前期の新入生セミナーと後期の基礎演習は、ひとクラス二十人弱の少人数制。レポートの書き方や大学図書館の使い方、プレゼンテーションなど、学びの基礎を身につけます。

2年次に、東洋史コース・西洋史コースに分かれます。アジア・欧米の歴史を扱う講義が33コマ、文献講読の授業が各コース8コマずつ開講されており、知識と技能の両面で専門性を高めていきます。

3年次から、専任教員6人いずれかのゼミに所属します。東洋史コースは三国志やモンゴル帝国を中心にアジア全域、西洋史コースでは古代エジプト、中世地中海世界、近世フランス、近代ドイツを中心に欧米の歴史について、4年次まで2年間にわたって研究指導を受けます。コロナ禍も収まり、海外に留学する学生も増えてきました。

卒業生の進路は、公務員や民間企業などさまざまです。なかでも人気が高いのは中学・高校の教員。毎年多くの卒業生が教員免許を取得し、教壇に立っています。

## 考古学専攻について

文学部 歴史学科 考古学専攻教授 寺前 直人

考古学専攻では現在、1年生から4年生までで百八十人が学んでいます。1学年あたりは四十人前後と、駒澤大学のなかでもっとも小規模な専攻で、アットワークな雰囲気の特徴です。専任教員は日本列島の考古学を専門とする教員が二人、中国を中心に海外の考古学を研究する教員が一人となります。新大陸からアジア、中東まで幅広い地域の考古学研究の第一線で活躍されている方々に非常勤講師をお願いしており、国内外のさまざまな考古学研究を学ぶことができます。

専攻では考古学でもっとも大事な現場での実践として、フィールドワークを重視しています。コロナ禍で中断を余儀なくされましたが、2022年度からは合宿での国内発掘実習を、2023年度からは中国での国外発掘実習を再開しました。それぞれ2週間前後の期間で地域の方々や海外の研究者と協力しながら、学生と教員がともに汗を流し、発掘調査を実施しています。また、その成果を大学にもちかえり、考古学実習室において写真撮影や実測などを学生主体で行い、発掘調査報告書として刊行しています。





文学部  
歴史学科  
日本史学専攻  
教授  
熊本 史雄

私の主な研究対象・内容は、近代日本の政治史・外交史です。とりわけ、どうして日本は「あの」戦争をしなければならなかったのか、いったん平和が訪れたはずの安定的な1920年代の国際秩序は、何を原因に、どのようにして崩れていってしまったのか、その結果、日本は何を目的に戦争への道を選択していたのか、という問題について研究しています。

最近では、「国際協調外交」を推進した外交官として著名な幣原喜重郎の評伝『幣原喜重郎』(中公新書、2021年)や、日露戦争に勝利した後の外務官僚たちが「満蒙権益」の維持と確保に汲々とするあまり、「大東亜共栄圏」構想の淵に次第に呑み込まれてい

た、という理解のもとで『外務官僚たちの大東亜共栄圏』(新潮選書、2025年)を著しました。とくに後者は、合理的で知的なエリートたちが犯した「失敗」の本質とは何だったのかについて論じたもので、軍部が「大東亜共栄圏」構想を主導したという従来の見解を見直す内容になっています。有り難いことに、人文学の著作に与えられる2025年度の主要な学術賞・論壇賞を、三つもいただきました(第20回榎山純三賞、第29回司馬遼太郎賞、第25回大佛次郎論壇賞)。

ところで、「歴史は繰り返す」というアフォーリズムがあります。これは、古代ローマの歴史家クルティウス・トゥリプスの言葉とされていますが、厳密に言えば、出来事は一回性なので、から、歴史は繰り返さないので、ですが、その出来事に胚胎する原理や構造は、過去の出来事のそれと同じようなものであるため、「繰り返す」といえるのです。

そのひそみに倣えば、日本がいかにして戦争への道を選択していったのか、という問いも、もって現代的な問題として捉えられるべきだと思えます。むしろこの問いは、歴史学における学びの二環として発せられるべき重要な問いです。ただし、それは決して過去における問題に止まりません。ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとパレスチナの紛争など、現代の21世紀の国際社会でも、むき出しの大国のナショナリズムとエゴイズムがぶつかり合うことによつて、世界は混沌と混乱を極めています。歴史を見る目を養うことは、先行きの見えない未来をどう生きるのか、という問題を考えるうえでも重要な営みです。卒

業生・社会人の皆さんには、歴史の奥深さを学ぶことを通じて、現代社会を生きるうえで、のヒントを学んでいただきたいと思っています。



教員ピックアップ

専門分野 フランス近世史、外国史学専攻



文学部  
歴史学科  
外国史学専攻  
教授

佐々木 真

転石苔むさず

私は外国史学専攻でヨーロッパ近世(16〜18世紀)の歴史を担当しています。研究のテーマもその時期のフランス史なのですが、興味にひかれて研究を続けているうちに、さまざまなことに取り組みことになりました。自分では研究の中心は貫いて軍事史だと思っているのですが、フランス絶対王政の検討が目的だったので、戦争の表象を通じてルイ14世の権威がいかに形成されたのか考えることに興味を持ちました。そのため、ルイ14世の治世下で王権と戦争を扱った芸術作品を検討して、2016年に『ルイ14世期の戦争と

芸術―生みだされる王権のイメージ』(作品社)を出版しました。ここではヴェルサイユ宮殿や戦争画、タペストリー、メダル、版画、国王騎馬像など、さまざまな芸術作品における王権と戦争の表象を検討し、ルイ14世の権威が戦争の実施と密接に関連していたことを検証しました。

この書籍をまとめる過程で、戦争への興味がさらに増し、歴史学として戦争をいかに考えるかを検討する共同研究を、日本史研究者や博物館学芸員を含めた十人以上の体制で開始しました。ここでは戦争観がどのように形成されるのかということを研究課題とし、その現場として戦争・軍事を対象とした博物館の研究に取り組みました。2015年から内外の博物館を巡り、その成果として2025年7月に共編著『戦争を展示する―戦争博物館の過去・現在・未来』(大月書店)を出版しました。

そこで、標題の「転石苔むさず」です。この言葉は西洋で中世から語られていた格言がもとで、英語では“A rolling stone gathers no moss.”となります。現在、これはふたつの意味で捉えられています。イギリスでは苔にフランスのイメージがあり、「職業や住居を変えてばかりいる人は、地位も財産もできない」というネガティブな意味で使われ、日本でもこの印象が強いです。逆にアメリカでは、「活発な活動をしている人は時代に取り残されることはない」といったポジティブな意味で使われます。

歴史学の世界でもイギリス的解釈をとり、ひとつのテーマにじっくりと取り組み、専

門性を高めていくことが評価される傾向があります。私の研究の場合、興味関心にひかれていろいろなお手を出すため、もともとルイ14世期の研究がおろそかになっている面はあるでしょう。しかし、研究の幅を広めたいために、研究上の人的交流や知見が広がったことも確かです。芸術を対象としたことで知己を得た美術史の研究者をはじめ、さまざまな分野の研究者と交流することができ、多様な視点から研究対象を見ることができるようになりました。

ただ、齢を重ね、転がることにも少し疲れてきました。今後は少し立ち止まり、フランス絶対王政の研究に耽溺するのめよいかなと考えています。





文学部  
歴史学科  
考古学専攻  
准教授

角道 亮介

以前、テレビを何げなく見ていたときに、とある番組で、「山のふもとの湖では、考古学者が恐竜の化石を発掘していました」というナレーションが入りました。車窓から眺める海外の風景を紹介する5分ほどの番組でしたが、このナレーションを聞いてすぐに、深夜にもかかわらず私は受話器を取り上げ、該当するテレビ局の「お客様センター」に電話をかけたのです。幸いにして電話はすぐにつながり、丁寧な調子で用向きを聞かれました。「先ほど放映されたテレビ番組の説明に誤りがあったので、お伝えしたいと思って電話しました。考古学者は、恐竜の化石を掘りません」と伝えるところ、先方はやや困惑した感じで、「では、考古学者は何を掘るのでしょうか?」と聞き返します。待つてました、とばかりに、電話口のこちら側で威儀を正した私は、厳かに答えました。「考古学者は、遺跡を掘るのです」と。数秒の沈黙ののち、先方からは「はあ、そうですか」という声。その言葉の背後から「何を言っているのだ、この人は」という心の声が聞こえてきそうな声色です。大切なことは、往々にして伝わらないものです。

よく勘違いされるのですが、考古学では恐竜の骨は掘りません。人間が暮らした遺跡や、人間が使っていた遺物を発掘します。考古学の対象はあくまで人間であり、人間のいないところには考古学はありません。それでは、物からどうやって人間や社会を考えればよいのでしょうか。考古学者とは、地面を掘って出てきた土器や青銅器を楽

しそうに(実際に楽しいのです)なでまわしている奇特な人、と思われるかもしれませんが、このイメージは間違っていないのですが、それだけではありません。土器や青銅器の形や作り方の変化は、それを作った人や社会が大きく変化した可能性を物語るのです。

私の専門は中国の考古学です。かつて中国には殷や周といった王朝が栄えており、当時はさまざまな形の青銅器が祭祀の道具として利用されていました。『史記』などの歴史書によれば、周の人々は殷王朝を滅ぼして自らの王朝を打ち建てたとされていますが、両者が利用していた青銅器は、形も作り方も驚くほど似ています。あまりにもよく似ているので、殷代も周代も、祭祀の青銅器を作ったのは同一の職人たちだったのだろう、と今では考えられています。殷が滅ぼうが周が興ろうが、青銅器職人たちは変わらず同じような青銅器を作り続けたのです。政治体制が大きく変わろうとも、それと関係なく日々を過ごしていた人々の姿が、物を詳細に観察することで浮かび上がってくるのです。

中国の考古学には、「透物見人(物を透して人を見る)」という言葉があります。物を見るだけで満足するのではなく、その背後にある人間や社会を読み解くことが考古学の面白さであり、醍醐味であると思います。博物館で土器を目にすることがあれば、誰がどうやって作ったのだろうか、と疑問を持ちつつ、当時の人間の暮らしをぜひ想像してみてください。



合宿における勉強会

このゼミに注目!

## 浅倉 直美ゼミ

- 専門分野: 日本中世史
- 演習テーマ: 戦国～織豊期の政治と社会

私のゼミでは、日本中世史のうち、戦国期から織豊期における政治と社会をテーマとして、史料と先行研究を大切にすることを基本に進めています。

歴史学科では、史料についての知識と理解を深める授業を1年生から受講していますので、これをふまえて、史料の収集・読解・分析の方法を学ぶとともに、研究論文の講読などを行います。

ゼミ生は自身の興味に沿った研究テーマを選び、必要な史料を集め、先行研究への理解をひろげ、各自で調べた結果を発表、質疑応答をしながら、卒業論文の作成を進めます。



文学部  
歴史学科  
日本史学専攻  
准教授  
浅倉 直美

1月下旬に開催する卒業論文報告会では、4年生が苦心・努力・成功した点を報告し、3年生には自身の卒論作成に生かしてもらおう場となっています。卒業論文で取り上げるテーマは、伊達・最上・佐竹・北条・里見・武田・今川・織田・徳川・長宗我部・島津の戦国大名・豊臣大名のほか、中世における刀剣・鉄砲・馬など多岐にわたります。

例年、9月上旬には、3・4年生合同で1泊2日の合宿を行い、博物館などで古文書の実物を見学し、戦国期の城跡見学（それなりに登るのに苦労する山城にも挑戦）なども行うとともに、見学する古文書についての予習として、上部の写真のように研究者をお招きして勉強会も行います。これまでの訪問先は、小田原から伊豆・群馬県南部、長野市から上田市、茨城県南部などです。宿泊することで、ゼミ生間の親睦が深まっているようです。

2年間のゼミで学び、修得した様々なことを、卒業後にも生かしてもらいたいと思っています。



古文書を用いての授業

### 浅倉ゼミの主な研究テーマ

- 伊達政宗と蘆名氏
- 上杉景虎の政治的地位 — 謙信・景勝との関係を通して —
- 真田昌幸と武田氏
- 北条氏光とその文書
- 第二次国府台合戦と房総里見氏
- 徳川家康と天正壬午の乱
- 浅井長政と織田氏 — 正妻「お市」を中心に —
- 長宗我部氏と織田氏
- 戦国期における馬 — 東海・関東地域を中心に —



歴史学科4年  
桐生 晏杜

### 学生からの一言コメント

浅倉先生のゼミには、戦国・織豊期を研究する学生が集まっています。

授業を通して、先行研究や史料を読解する力を養い、日本中世史に対する理解を深めることができました。卒業論文の執筆では、先生から多くの助言をいただき、先行研究や史料に取り組むだけでなく、日本語の使い方もこだわり進めました。

私自身は、ゼミでの活動を通じて地域の歴史に関わる仕事に就きたいと思い、地方公務員を志しました。ゼミで学んだ史料収集の方法や先行研究の読解、文章の作成などは公務員試験にも大いに生かすことができました。歴史学科のゼミは、学生同士も仲が良く、互いに研鑽できる環境が整っていると思います。

このゼミに注目!

## 飯田 洋介ゼミ

- 専門分野:ドイツ近現代史
- 演習テーマ:西洋近現代史の諸問題とアクチュアリティ



文学部 歴史学科 外国史学専攻  
教授

飯田 洋介

私の専門はドイツ近現代史(特にヒスマルク)ですが、ゼミでは学生の関心に合わせてドイツ史に限らず、19〜20世紀の西洋近現代史を幅広く扱っています。3年生の演習Ⅰでは前期に学生が読みたい文献を幾つか選んで講読を行い、後期にはドイツ近現代史を中心に史料読解演習を行っています。そこで史資料の読み方・コツ・注意点を学んでもらった上で、4年生の演習Ⅱでは4年間の学びの集大成としての卒業論文の完成に向けた中間報告をしてもらう一方、論文添削も行っています。その成果については、口頭試問を兼ねて3・4年生合同で卒論発表会を開催し、その内容を全員で確認するようにしています。

ゼミ生同士の親睦を深めるべく、「よく飲み、よく食べ」



をモットーに定期的に懇親会を開き、夏休みには合宿を行っています。また、不定期ではありますが、研究対象の現場と一緒に確認すべく、海外研修も行うようにしています(令和6年度にはポーランドとオーストリアに行ってきました)。このような課外活動を通じての学生の生き生きとした姿や成長を見るのは本当に嬉しく、時には心強く感じることもあります。

インターネットと生成AIの発展は、私たちの生活を豊かにする一方、不確かな情報が横溢し、時には歴史の真偽の境界線すら曖昧になるときもあります。だからこそ、自分の眼で史料を見ながら歴史を検証し、現代の諸問題と絡めてその問題や意義を考察できる力が今、求められています。それが少しでもできる人材の育成・ゼミづくりを今後も心掛けていきたいと思っています。

### 過去に提出された主な卒業論文

- 初期のヒトラー演説に見る彼の野望
- ヴァイマル憲法第48条「非常権限」の成立と運用
- ドイツにおける「過去の克服」
- ハプスブルク帝国統治下  
ボスニア・ヘルツェゴヴィナにおけるムスリム
- サライェヴォ事件前夜のハプスブルク外交
- 19世紀中葉イギリスにおける紅茶の「国民的飲料」化の実態
- イギリスの鉄道周遊旅行をめぐる論争について
- ウォルト・ディズニーと1941年のストライキ
- ロナルド・レーガンと「ベトナム症候群」
- カヴールとイタリア統一
- ナジ・イムレとハンガリー動乱



歴史学科4年  
石井 隼斗

### 学生からの一言コメント

飯田ゼミには、西洋近現代史を研究したいという学生が集まり、日々研究に励んでいます。各自のテーマは多岐にわたり、ゼミ内では幅広い視点を共有することができます。

先生の指導は熱心かつ丁寧で、史資料に真摯に向き合う姿勢や、自ら課題を見つけ調査を進める行動力を養うことができます。こうした姿勢は学生生活にとどまらず、社会に出てからも大きな力となるでしょう。

また、飯田ゼミでは3・4年次を通してゼミ合宿や懇親会などのイベントが定期的で開催され、先生と学生、学生同士の間に強いつながりが築かれています。先生から指導を受けながら、学生同士で切磋琢磨できるという環境が整っている点は、飯田ゼミの大きな魅力の一つです。

このゼミに注目!

## 藤野 一之ゼミ

- 専門分野: 考古学(古墳～平安時代)
- 演習テーマ: 古代社会の多様性を考える

このような興味深い古代の社会について、発掘調査で発見・出土した資料(古墳や竪穴住居、土器や石器・金属器など)をもとに考えていくことをゼミで実施しています。私のゼミ生は興味関心が多様であり、卒業論文で扱う時代は古墳時代から近現代までとさまざまです。ただし、考古学の分析視点や方法は時代や地域を越えて共通しています。そのためゼミ生には、ま

日本列島の古代の社会については、均質的な社会ではなく多様であったことが明らかになってきています。例えば、私自身が研究で扱っている古墳時代についても、すべての地域で古墳がつくられるわけではありませんし、古墳がつけられたとしても一時期のみで途絶える地域などもあり、その理由について研究がなされています。また、政治的な中心地(奈良盆地や大平野)と地方を比較すると、共通点もありながら相違点も多々見受けられます。これは、地方の方が劣っているというわけではなく、各地域社会が新来の文物や慣習を取捨選択していたとも考えられるのです。



文学部 歴史学科 考古学専攻  
准教授  
藤野 一之



ずは現状の研究の課題点や問題点を見つけることから始めてもらい、膨大な発掘調査のデータから自分が必要な情報を探し出してもらいます。必要な情報についてはExcelを使用して一覧表を作成し、そこから共通点や相違点を見いだしたうえで、その背景について考察することを卒業論文の目標としています。これは、卒業後に社会人として情報化社会を生きるために必要な経験だと考えています。

例年十五人程度のゼミ生は多様なため、お互いの興味関心を理解し、互いに成長できる環境づくりを目指しています。また、考古学での研究ですので、発掘調査現場や遺跡・遺物などの実物資料を見学する機会も考古学専攻の3ゼミ共同で実施しています。これは駒澤大学の考古学の特色であり、これからも継続していこうと考えています。

### 藤野ゼミの主な卒業論文のテーマ

- 古墳時代後期の湖西窯跡群における工人集団の研究
- 群馬県における古墳時代土師器高坏生産の研究
- 上毛野地域における埴輪生産体制の研究
- 古代における鉄鉢形土器の役割―千葉県を中心に―
- 九州地方における家形横穴墓の出現と展開
- 群馬県における剣形石製模造品の研究
- 中近世ベトナム陶器における製作技法の研究
- 関東地方における周溝持建物の意義
- 古代東北における瓦の生産に関する研究  
―城輪柵跡と泉森窯跡の供給関係を中心に―



歴史学科4年  
飯塚 麻結

### 学生からの一言コメント

藤野先生の演習の魅力は、一人ひとりに合わせたきめ細やかな指導を受けられる点にあります。特に授業では、不明点や次の目標を確認しながら、自身の興味関心がある分野について深く探究することができます。また授業の内外にかかわらず質問をした際には、丁寧に説明していただけるだけでなく、関連する文献の紹介もあるため、自らの研究を進めるヒントを得ることができます。

講義では古墳時代を中心に、通史や研究史、個別的な分野など幅広く取り扱っています。スクリーンに多くの図面を掲載するだけでなく、直接書き込みながら説明をいただけるため、分かりやすく、興味関心の広がる内容です。

# の声!

Voices of Students!

歴史学科  
日本史学専攻  
4年  
金森 仁美



## 私

は昔から歴史が好きで、歴史の面白さを教えられる教員になることを目指して駒澤大学に入学しました。特に古代の文化に興味を持っていたので、佐藤雄一先生の日本古代史ゼミに入り、地元静岡県に関係する富士信仰について研究しました。

中学・高校社会科の教員免許取得を目指して教職課程も受講しました。専門科目に加えて歴史学以外の分野も履修し、3年次は模擬授業などもあり大変でしたが、教員を目指す仲間がいたことで乗り越えることができました。4年次の教育実習は、生徒との関わりや社会科教育など様々なことを学ぶ貴重な経験となりました。また、1年次から古代史研究会に所属して発表や合宿などを経験し、学芸員資格の取得も目指していたこともあり、様々な視点から歴史を学ぶことができました。

卒業後は、駒澤大学で学んだことを活かして教壇に立ち、生徒に歴史を学ぶことの楽しさや面白さを伝えられるように頑張ります。

歴史学科  
日本史学専攻  
4年  
小林 優太



## 私

は、幼い時から歴史が好きで、大学に進学するなら関心のある日本史をより深く学びたいと思い、駒澤大学に入学しました。1年生の4月にあるサーフェスで幕末維新史研究会の説明を聞き、好きな時代である幕末をより詳しく学べると感じ、研究会の所属を決めました。研究会の活動の中では、函館や鹿児島、萩・下関といった幕末にゆかりのある地を合宿で訪れることができました。現地では、学芸員の方々から展示品について直接説明を受けることができ、非常に貴重な経験ができました。また研究会では、『翔龍』という論文集を毎年作成しており、論文の書き方や研究の仕方などを学ぶことができました。

今年度は就活と卒論等で忙しい一年でしたが、公務員試験に挑戦し第一志望に合格することができました。歴史学科で培った知識や学びを活かし、就職先においても活躍できるように、今後も精進していきたいと考えています。

歴史学科  
外国史学専攻  
2年  
松田 漣士



## 2

025年時点で約63億人の人口を抱えるアジア・アフリカ地域は今なお変化に事欠きません。日々変わり続ける中で起こる政変や運動、紛争の背景にはどのような歴史が関係しているのかについて、私は関心を持ってきました。

この駒澤大学はとりわけ中央アジアに関する講義が豊富であり、自分自身の興味関心を大いに刺激する場所です。加えて2年次に入り専門科目を多く履修できるようにりましたが、専門科目以上に教養科目が不可欠であると気がつきました。例えば、授業で浮かんだ疑問や気になる点に関して書籍を手にとることがありますが、このようにして得た知見は歴史学にとどまらず、さまざまな学問へと伝播してゆきます。この知見同士が広がりつながる瞬間が学問の魅力であると同時に、時にはさらなる問題解決に向けた手助けとなり得るのです。

引き続きさまざまな学問の力を借りるとともに、予期せぬ発見を心待ちにしながら、さらに興味関心を広げていきたいです。

# 学生たち

## 私

が歴史学科に入ったのは、歴史を研究したいというひたむきな気持ちではなく、世界史が得意だったという単純な理由でした。しかし、歴史学科の学生と交流したり、授業を受けたりしているうちに、歴史に関心を寄せていく自分が現れ始めました。担当の先生方が相談の場を設け、学生がどんなところに関心があるのかを明確にしてくださいるので、ほぼ0からのスタートだった私でも研究発表を行うことができました。

歴史に興味がある、研究したいという気持ちがある方には、特に駒澤大学の歴史学科を勧めます。私のように、興味がなかった方にも勧めます。あなたが歩んできた道もすべて歴史なのです。



歴史学科  
外国史学専攻  
3年  
土田 哉汰

## 考

古学についてもっと知りたい、中学時代に訪れた博物館で奇抜な縄文土器を見たときからそう考へるようになりました。その後、駒澤大学考古学専攻で考古学を実践的に学ぶことができる点に魅力を感じ、入学を決意しました。

入学後は、考古学研究会に所属し、1年から測量調査や発掘調査に参加し、数多くの経験を積むことができました。調査では、先生の指導の下、先輩や後輩と議論を重ねることで、より実践的な知識を蓄えることができました。また、チームでの調査や、その後の長期にわたる報告書作成の中で、知識・技術的な面だけではなく、人間的にも成長することができたと感じています。



歴史学科  
考古学専攻  
3年  
深井 雄太

今年度は、研究会で実施された韓国への巡検や、専攻での実習として行われた中国での発掘調査を通じて、今まで以上に広い視野を持って考古学を学ぶことができました。今後も残りの学生生活を有意義に過ごすため、駒澤大学考古学専攻での学びをさらに深めていきたいです。

## 豊

豊富な実習に惹かれて駒澤大学に入学しました。2年次からは測量調査や泊まりがけの発掘調査に参加しました。機材の使い方や図面の書き方など実践的に考古学を学ぶだけでなく、先輩や同級生と共に作業をする中で親睦を深めることができました。

博物館学講座では学生が一年をかけて展示を企画・作成していく機会もありました。これも大学内に博物館を持つ駒澤大学ならではの学びの場だったと感じています。



歴史学科  
考古学専攻  
4年  
正木 日彩

また、4年次に参加した中国での発掘調査は、日本とは異なる現場での調査という、とても貴重な経験をさせていただきました。現地の学生とペアを組み、一つのグリッドを担当して作業を進めていきました。海外での生活は戸惑うこともありましたが、ペアの学生と積極的に交流を深めていく中で忘れられない経験となりました。

実習を通して、協調性をはじめとしたさまざまな力を養えました。大学で重ねた学びを胸に、卒業後も新しい世界へ踏み出していきたいと思えます。

## 学生たちを静かに見守る

# 百周年記念講堂

学内のさまざまなイベントで親しまれている「百周年記念講堂」。最大、1150席を有するこの大講堂は、年間を通じて多くの行事に利用されています。今回は、学びと節目の時間を支えてきたキースポットをレポートします。



北門の通行可能時間について  
 8:00～14:00(入場のみ)  
 14:00～19:00(退場のみ)

AED 授乳室  
 多目的トイレ オストメイト対応トイレ  
 駒澤大学-VARIAN放射線治療人材教育センター  
 種月館(2階・地下1階)  
※4号館と種月館を除き、各施設にはエレベーターを設置しています。

### 〈百周年記念講堂〉

1882(明治15)年10月15日に、麻布区北日ヶ窪町(現在の港区六本木)に「曹洞宗大学林専門本校」として開校しました。この日が開校記念日とされています。記念講堂は創立100周年を記念して、本部棟と1号館をあわせて建てられました。

講堂の広さは約9,700㎡で、収容人数は1階が950席、2階が200席の合計1,150席です。一部の座席は取り外しが可能で、車いすスペースとして利用できるようになっています。また、1階ロビー入口にはチケット窓口やクロークが設置されています。

2階には和室と洋室があり、和室にはお茶用の炉壇が数カ所備え付けられています。普段は出演者の控室として使用されています。



## 学内の行事



主に、入学式や卒業式、オータムフェスティバル、学内の部活動やサークルのイベントなどに使用されています。そのほか、健康診断の会場として使われるほか、卒業式に向けた袴レンタルの展示会、フェローイベントとして大八木総監督の講演会や、駒澤大学高校吹奏楽部による演奏会なども開催されています。

また、世田谷区のシニアスクールに会場を貸し出し、地域の方々を対象に、教授による講演を年間4回ほど行っています。

基本的には営利目的での会場貸し出しは行っていませんが、公益性の高いものについては貸し出されることもあります。年間を通して稼働率は高く、有効に活用されている施設です。

## 壇上に祀られている仏像について

現在の種月館がある場所に以前は体育館があり、そこに祀られていたものを移動しました。記念講堂の壇上に常設されており、暗幕の後ろに祀られています。

いちぶつりょう そそう  
**〈一佛両祖像〉** 曹洞宗では、釈尊(一仏)と道元禅師・瑩山禅師(両祖)を「一仏両祖」と称して祀っています。この一佛両祖像は、1882(明治15)年、本学の前身、曹洞宗大学林専門本校が開校したときに寄進されました。



しゃくわにぶつ  
**釈迦牟尼仏**  
 法量:高261cm/幅141cm  
 仏教の開祖である釈迦牟尼を曹洞宗では本尊とする。

けいざん  
**瑩山禅師**  
 法量:高123cm/幅55cm  
 道元から数えて4代目の祖師。大本山總持寺(石川県、現神奈川県)を開き、教団発展の基礎を築いた。曹洞宗では「太祖」と称される。

だうげん  
**道元禅師**  
 法量:高123cm/幅55cm  
 日本に曹洞宗を伝え、大本山永平寺(福井県)を開いた。曹洞宗では「高祖」と称される。



### 取材を終えて

文化部 鶴岡 ナオミ

2022年4月、娘の入学式を配信動画で視聴し早4年が経ちました。保護者はまだ学内に立ち入ることができない時期で、画面に映る舞台上の大きな仏像に感動したことを覚えています。

ご縁があって教育後援会の活動に参加することになり、何度か記念講堂に入る機会がありましたが、仏像様にはお目にかかることがありませんでした。私にとって最後の会報取材で記念講堂を希望し、実際に仏像様を拝見し、その大きさと荘厳な佇まいに圧倒されました。普段から暗幕の後ろで学生たちを見守ってくださっていると知って、驚きと安らぎを覚えました。

お忙しい中取材に、ご協力いただきました総務部 新羽様、坂本様、学生支援センターの大野様、浅井様、ありがとうございました。

## 卒業式・入学式日程

入学式は毎年4月8日に一日の中で学部を4回に分けて行い、卒業式は一日2回を2日間に分けて行っています。

他会場で1回に纏めて行う案もありますが、仏式に則った式典を行うため一佛両祖像を他に移動することができないことから、入学式や卒業式は数回に分けて記念講堂にて行っています。入場は学生のみとし、保護者・付き添いの方は別会場、または自宅でライブ配信をご覧いただけます。

日程	時間	学部・研究科等
令和8年 3月23日(月)	10時開式	仏教学部、法学部、大学院仏教学研究科 大学院法学研究科、法科大学院
	13時開式	経済学部、医療健康科学部、大学院経済学研究科 大学院商学研究科、大学院医療健康科学研究科
令和8年 3月24日(火)	10時開式	経営学部、グローバル・メディア・スタディーズ学部 大学院経営学研究科、大学院グローバル・メディア研究科
	13時開式	文学部、大学院人文科学研究科

# オータム Autumn Festival フェスティバル を終えて

大学祭の  
可能性を探して



11月1日(土)・2日(日)の2日間にわたって、「オータムフェスティバル2025」が開催されました。

今年度も完全対面で開催され、さまざまなステージや企画を通して学生たちの熱気・熱意を届けることができました。ここではさまざまな企画の模様と、今年度の実行委員長の感想をご紹介します。

開催テーマ

## 「Quest」

開催日時：令和7年11月1日(土)・2日(日)

開催方法：対面

運営：オータムフェスティバル実行委員会

運営HP：Autumn Festival2025



「オータムフェスティバル2025」

実行委員長

経済学部 商学科3年

### 小野寺 凜

皆さま、こんにちは。「オータムフェスティバル2025」実行委員長を務めました、小野寺凜と申します。

このたび、駒澤大学「オータムフェスティバル2025」を、11月1日(土)・2日(日)に駒沢キャンパスにて開催いたしました。当日ご来場いただいた皆さま、ご参加いただいた団体・企業の皆さま、そして本学祭の開催に携わってくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

本年度のオータムフェスティバルは、150人を超える実行委員が、それぞれの役割と責任を果たしながら企画・運営に取り組みました。駒澤大学のサークル・部活動団体をはじめ、世田谷地域を中心とした企業・団体の皆さまなど、延べ103団体にご参加いただき、約1万5,000人もの方々にご来

場いただきました。特に来場者数は、コロナ禍以降の開催で過去最高であり、活気に満ちた2日間を創り上げることができたと感じております。

本年度のテーマとして「Quest」を掲げました。「探究」や「冒険」を意味するこの言葉に、大学祭に関わるすべての人が挑戦し、新たな価値を見いだす場であってほしいという思いを込めています。この思いを企画内容および会場全体の構成に落とし込み、「Quest」を体感できる大学祭の実現を目指しました。さらに、本年度はこれまでのオータムフェスティバルにはなかった新たな企画にも積極的に挑戦しました。その結果、昨年度以上に幅広い層の方々楽しんでいただけるようなイベントを提供することができたと考えております。

私自身、実行委員長として準備期間から当日まで、携わるすべての方にご満足いただける大学祭の実現を目標に活動してまいりました。当日、会場の至る所で、ご参加いただいた団体や来場者の皆さまが笑顔で楽しんでいる様子を見ることができ、大きな達成感と喜びを感じております。

「オータムフェスティバル2025」は無事に終了いたしました。すでに2026年度の開催に向けた歩みは始まっております。これまでの経験を糧に、さらに進化したオータムフェスティバルを創り上げていけるよう、実行委員会一同尽力してまいります。

今後とも、オータムフェスティバルへのご期待とご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



## プレイバック! オータムフェスティバル2025

ぜひオータムフェスティバルHPをご覧ください。

駒澤大学オータムフェスティバル2025

検索

こんにちは。株式会社KUサポートです。

株式会社KUサポートは、学校法人駒澤大学の100%出資により設立された事業法人です。

大学と連携して事業活動を展開し快適な学生生活を送っていただくことに努めております。

- 住まいを必要とされる方へ大学専用寮・優先寮・マンション等の斡旋
- 学生生活を安心してお送りいただけるように幅広く生活を補償する学生総合補償制度
- 勉強等で必要となるノートパソコン、モバイルWi-Fiの販売などの様々な事業を展開しております。

より良い学生生活をお過ごしいただけますよう、是非ご利用いただければ幸いです。

株式会社KUサポート

## 学生サービスのご案内



### 住まい紹介

駒澤大学専用寮・優先寮・学生会館・学生マンション等の物件を、信頼できる学生住宅紹介専門会社と提携しご紹介いたします。



### 大学推奨ノートパソコン

幅広いラインナップから、大学推奨ノートパソコンを低価格、かつ他では用意できない4年間の任意加入保証付きでご提供します。



### 学生総合補償制度

【駒澤大学生専用の保険制度です。】  
学生生活を安心してお送りいただけるよう、海外も含め日常生活における病気やケガ、賠償など幅広く補償します。



### WEB資格講座

27資格講座が1年間1万円（税抜）で受け放題！いつでもどこでも受講可能です。



### 語学講座

就活で使えるTOEIC®L&R IPテストや外国人講師と大学内で毎日英会話!!



### スーツ

入学式、就活に向けて。  
駒澤大学生特別割引あり。



### モバイルWi-Fi

特別な設定不要!! ノートPC+スマホ  
を利用場所の制限なく使い放題。  
※通信量制限なし ※解約金なし

電子パンフレットはこちらから

## 学校法人駒澤大学事業会社 株式会社KUサポート

株式会社KUサポートは、大学と連携して事業活動を展開し大学の教育・研究の充実に寄与し、より良い環境づくりをサポートします。事業活動を通じて広く社会に貢献することを目的とし学校法人駒澤大学の100%出資により2007年7月に営業を開始しました。



TEL 03-3418-9743 URL <https://ku-support.com/>

# 高等教育の修学支援新制度について

修学継続を経済的事情であきらめることがないよう、国の制度として2020年度より「高等教育の修学支援新制度」が実施されており、駒澤大学もその対象機関のひとつとして認定されています。

本制度は、国が支援する「授業料等減免」と日本学生支援機構の「給付型奨学金(返済不要)」が一体になっている制度で、目安として世帯年収380万円以下の方を対象に、最大70万円(年額)の授業料減免に加

え、毎月最大75,800円の奨学金が給付されます。

経済的支援を必要とする方は、まずこの制度への申請をご検討いただくよう、大学としてもお勧めしています。この制度の支援を受けるための要件には、世帯年収・資産・成績・学修意欲などがあります。詳細は日本学生支援機構の「進学資金(給付奨学金)シミュレーター」などでご確認ください。

また、令和7年度より制度が拡大

し、多子世帯(扶養する子等が3人以上である世帯)の学生については、世帯収入にかかわらず授業料減免の対象となります(年額最大70万円)。多子世帯の要件・申請方法等の詳細については、大学ホームページで公開しますので、ご確認ください。

修学支援新制度の申請手続きをするためには、4月に学生支援センター日本学生支援機構(JASSO)奨学金窓口にて、書類を受け取っていただく必要があります。

## ★高等教育の修学支援新制度について

支援区分	世帯収入の目安(年収)	授業料減免(上限額は年額)	給付奨学金(月額) 自宅通学*1	給付奨学金(月額) 自宅外通学
第Ⅰ区分	～約270万円	満額支援(最大70万円)	38,300円(42,500円)	75,800円
第Ⅱ区分	～約300万円	2/3支援(最大47万円)*2	25,600円(28,400円)	50,600円
第Ⅲ区分	～約380万円	1/3支援(最大23万円)*2	12,800円(14,200円)	25,300円
第Ⅳ区分 (多子のみ)	～約600万円	満額支援(最大70万円)	9,600円(10,700円)	19,000円
多子世帯	収入基準なし	満額支援(最大70万円)	支給なし	支給なし

※授業料減免額は学部により異なります。

\*1 生活保護世帯で自宅から通学する人および児童養護施設等から通学する人は、カッコ内の金額になります。

\*2 多子世帯(扶養する子等が3人以上)の場合、授業料減免額は区分にかかわらず「満額支援(最大70万円)」となります。

## 令和8年度 新設奨学金のご案内

教育環境の高度化と、多様な学生が切磋琢磨し誰もが輝けるキャンパスの実現に向けて、

駒澤大学では、来年度(令和8年度)より新たに5つの学内奨学金制度を設けます。

いずれも返済不要の給付型奨学金で、他の奨学金と併給が可能です。

奨学金名称	対象・条件	給付額
① 資格取得奨励金	大学が指定する資格を取得・合格した学生(例:日商簿記検定、FP技能検定試験、手話検定 等)	資格の難易度に応じ1万～15万円
② 語学支援奨学金	大学が指定する語学試験を受験した学生 ※可否を問わず、受験料の実費を補助(年度内各試験1回まで)	受験料相当額最大1万5千円
③ 道のしおり奨学金	社会的養護等を必要とする学生(児童養護施設出身者、養育里親家庭出身者 等)	年額30万円
④ リカレント奨学金	社会経験を経て入学した学生(独立生計者) ※経済的理由により修学困難な方が対象	年額20万円
⑤ 雲のつばさ奨学金	障がい者手帳を有している、または指定難病に罹患している学生 ※申請は在学中1回まで	年額20万円

●申請方法や詳細については、順次KONECOおよび大学ホームページにてご案内します。

●各奨学金の内容は、随時見直しを行う可能性があります。

駒澤大学奨学金ホームページ



【奨学金担当】

学生支援センター 日本学生支援機構(JASSO)奨学金窓口

TEL: 03-3418-9557 開室時間: 平日のみ 10時～17時

MAIL: scholarship@komazawa-u.ac.jp

駒澤大学教育後援会のホームページをご確認ください。

<https://www.komazawa-k.org>



駒澤大学教育後援会のホームページは、スマートフォン等、モバイルデバイス（iPhone、iPad、Android等）でも閲覧しやすいよう最適化しています。通信の暗号化によってWEBサイトの安全性を強化しています。



## 自転車損害賠償保険等への加入について

東京都では2020年4月1日より、自転車利用者は自転車の利用によって生じた他人の生命又は身体の損害を賠償することができるよう、自転車損害賠償保険等に加入することが義務化されました。

自転車通学をされる方は、自分や家族が加入している保険の賠償範囲を確認した上で、自転車事故での損害賠償をカバーできる保険に加入してください。

※本学では、入学時に学生教育研究災害傷害保険（学研災）とそれに付帯する賠償責任保険（学研賠）に全員加入していますが、この保険では全ての自転車事故が補償対象となっておりません。普段の生活の中で自転車に乗る機会がある方は、別途、自転車損害賠償保険等に必ず加入してください。

## 国民年金保険料 「学生納付特例」の申請について

※本学は、令和2年1月23日付で、国民年金の「学生納付特例事務法人」に指定されました。

20歳になると国民年金の保険料の納付が義務づけられています。学生については、申請により在学中の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。大学を通じて学生納付特例を希望される方は、学生支援センター窓口で学生本人が申請手続きをしてください。

※大学に来る機会が少ない方は、住所地の市区役所・町村役場の国民年金担当窓口、または年金事務所、マイナポータルでも申請できますので、こちらへお問い合わせください。

### 【お問い合わせ先】

学生支援センター②番窓口  
03-3418-9873

詳しくは  
日本年金機構HPへ



## イベント申込サイトと イベント参加申込ヘルプサイトのご紹介

教育後援会が開催する各種イベント（定期総会、教育懇談会、一泊参禅研修会、新年賀詞交歓会など）への参加申し込みは、専用のイベント予約サイトより登録していただきます。

システムの利用方法を、画面付きでわかりやすく解説しているのが「イベント参加申込ヘルプサイト」です。このサイトを参照することで、スムーズにイベントへの参加申し込みを完了することができます。参加申し込みに関するご不明点は、まずこちらをご覧ください。

**STEP 1** 「各種イベント予約システム」のサイトにアクセスする

**STEP 2** (初回のみ) 会員登録から予約する流れ  
(会員登録後) 2回目以降 ログインから予約の流れ

**STEP 3** 登録後すぐに確認メールが届いているか確認

※昨年ご登録いただいた方も改めて登録が必要です。  
※教育懇談会では、参加票を確認させていただきますので、スマートフォンをご持参ください。



## 原稿用紙1枚程度(400字程度)

※ふるさとだより、学生に関すること、

会報に対するご意見などをお寄せください。

※原稿には、タイトル・氏名・お子様の

学部学科学年等をお書き添えください。

顔写真なども一緒にいただけると幸いです。

なお、原稿はお返しいたしません。

〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢1-23-1  
駒澤大学教育後援会事務局 宛

送り先  
(メールでも受け付けております。)

[k-koen@komazawa-u.ac.jp](mailto:k-koen@komazawa-u.ac.jp)

「父母寄稿欄」への  
投稿をお待ちしております

# 令和7年度

## 「学業成績表」について (ご案内)

教務部

今年度の保証人宛学業成績表(上段)を、3月中旬に発送いたしました。お手元の成績表で、大学での成績、修学状況を必ずご確認ください。転居後、大学への届け出がお済みでない方は、至急「保証人住所変更」の手続きを行うよう、学生本人にお伝えください。なお、3月24日(火)以降も「学業成績表」が届かない場合は、教務1係へお問い合わせください。

ただし、「個人情報保護法」により、学生本人が保証人への成績情報開示に同意していない場合は、お手元に届きません。

### ◆学業成績表の見方

「学業成績表」には、本年度までに履修登録した各授業科目の成績評価、全履修科目の総合成績評価、及び卒業に向けた単位修得状況を記載しております。

試験(授業の出席状況レポート等課題の提出状況を判断基準とし、「成績評価:単位認定」に従い、評価を「S・A・B・C・F・空欄」で表記し、全履修科目の総合評価はGPA値として4点満点で「単位修得状況欄」に表記しております。なお、評価欄が空欄の場合は単位を修得していません。①授業出席日数が不足しているため、評価できない②試験を受験していない(欠試)③課題等を提出していないといったケースが考えられます。Tの場合は認定科目を意味します。卒業に向けた単位修得状況は、学生の所属している学科の卒業必要単位数を、

科目分野ごとに「単位修得状況欄」に記載しております。今年度までの単位修得状況と比較していくと、卒業への進捗状況が把握できます。

### ★学業成績表を見る際は、次の点にご注意いただきご覧ください。

1. 合格科目(S・A・B・C)が何科目あるか。今年度履修登録をした科目のうち、どの程度合格しているかをご確認ください。履修登録した科目に対して著しく合格科目が少ない場合や、評価欄に空欄が目立つ場合は、授業に出席していないケースが考えられます。
2. 入学してから現在までに卒業に必要な単位を何単位修得し、何単位不足しているか。

「単位修得状況欄」にある卒業必要単位数を1年次25%、2年次60%、3年次85%を目安に修得されています。卒業に向けて順調な範囲と言えます。ただし、1年間で履修登録できる単位数は各学科、学年、成績評価等により異なりますので、計画的に履修をしていく必要があります(年間履修制限単位数)。

### ◆進級規程による修学指導と進級基準について

進級規程により定められた条件を満たさない場合、学部による修学指導の対象と

なります(「進級基準」)。また、進級基準を満たしていない場合は原級留め置きとなります。原級条件に応じて「警告」「退学勧告」がなされます。進級基準は学部・入学年度によって異なりますので、大学HPでご確認ください。

### ◆学業相談:お問い合わせについて

保証人の方は、毎年の単位修得状況について「学業成績表」で確認していただき、学生の修学状況を把握していただくとともに、勉学に対する意識を高めていただくと思います。3年次になると就職活動等も開始され、4年次になると大学の総まとめとなる学修・研究に多くの時間が割かれます。有意義な学生生活を送っていただくためにも、早い段階から計画的に単位を修得していくことを推奨しております。

なお、「学業成績表」をご覧になった上でご質問や相談を希望される場合は、問い合わせ先の担当係に事前にお問い合わせの上、ご来校ください。成績に関して資料に基づき相談する場合は、個人情報を取り扱うこととなるため、保証人であることが確認できる公的書類のご提示をお願いしております。代理人の方が来校される場合は、委任状も併せてご持参ください。

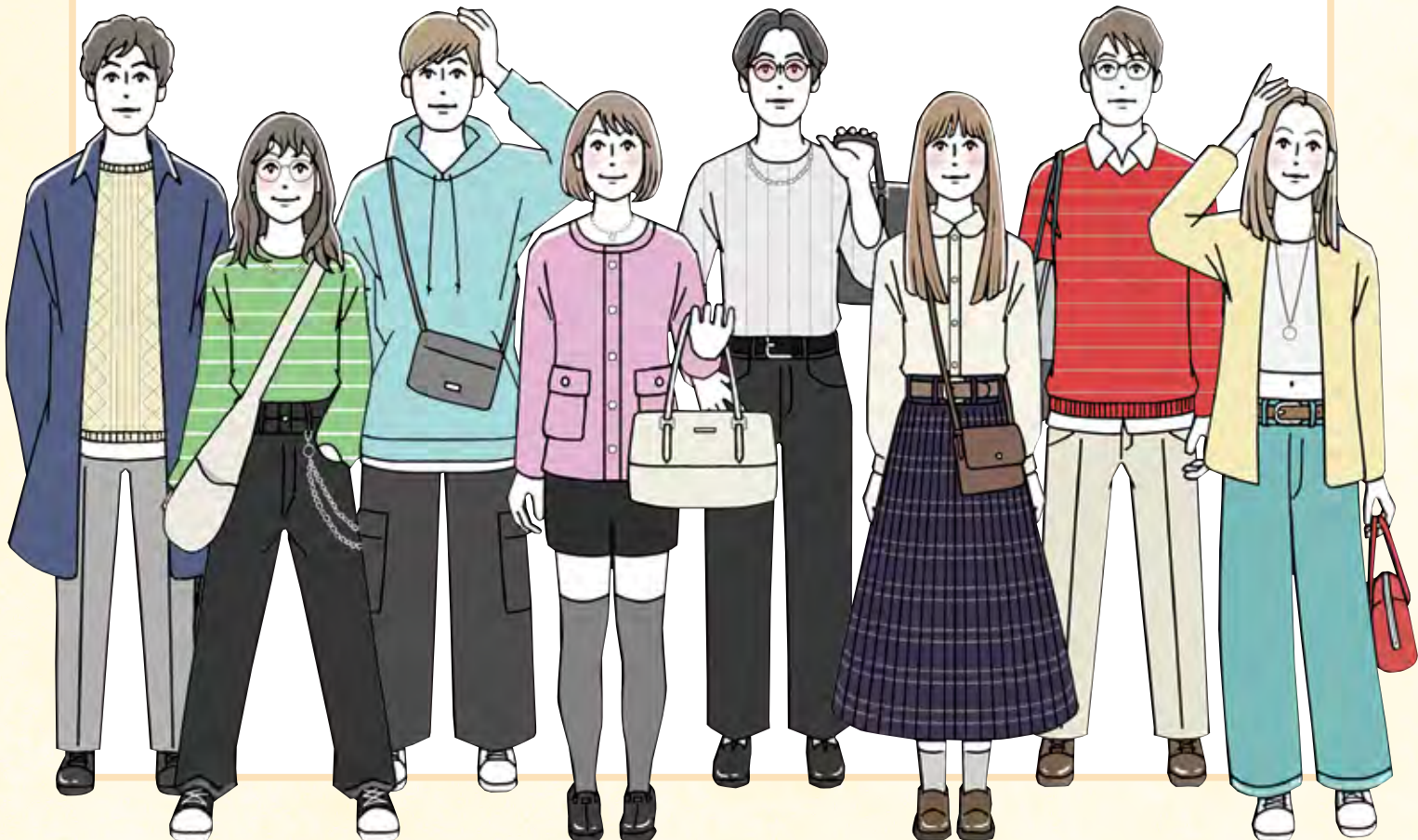


〈表〉学業成績表の形式

単位とは  
各授業科目は、それぞれ大学設置基準に基づいて、単位(学修の量を数字で表したものが定められています。この単位を定められた期間で修得することによって、卒業する制度を単位制度といいます。

〈裏〉

お問い合わせ先  
成績に関すること／  
教務部 教務1係 03-3418-9118  
住所変更・休学・復学・退学に関すること／  
教務部 学籍係 03-3418-9121



# 協定校への 短期語学セミナー参加のすすめ

## カリフォルニア大学アーバイン校 英語セミナー

アメリカの中でも治安が良いことで知られるカリフォルニア州アーバイン市は、温暖な気候に恵まれた活気あふれる商業都市です。本セミナーでは先方大学が提供する優れた集中英語プログラムで勉強しながら、同世代の現地学生がパートナーとなり、交流を持ちます。また、質の高いホームステイを体験できることも、本セミナーの人気の理由の一つです。

- 日程：2026年8月2日～30日
- 参加費：892,000円  
(2025年度実施額、別途燃油サーチャージ50,000円)
- 定員：30人
- 宿泊：ホームステイ4週間
- 内容：英語授業・アメリカ文化講義・観光
- 引率：なし

## ブリティッシュ・コロンビア大学 英語セミナー

本セミナーでは、世界屈指の美港バンクーバーに隣接する美しいキャンパスで英語を学び、また、質の高いホームステイを通じて異文化体験をすることができます。勉強の合間には、ヴィクトリア島の古い町並みの散策や、カナダの雄大な大自然の中でのアクティビティを満喫するなど、バランスのとれた内容となっています。

- 日程：2026年8月3日～30日
- 参加費：801,000円  
(2025年度実施額、別途燃油サーチャージ52,200円)
- 定員：30人
- 宿泊：ホームステイ4週間
- 内容：英語授業・カナダ文化講義・観光
- 引率：なし

国際センター事務室では、語学力の向上と外国での異文化体験を目的に、短期語学セミナーを毎年、夏季と春季の長期休業中に実施しています。このセミナーは、協定校への約1カ月間の語学研修で、修了後には単位認定もされます。参加費用は授業料、渡航費、宿泊費、保険料等を含めて各大学とも、左記(夏季プログラムのみ)のとおり予定しています。

3月下旬ごろに、学内各所に設置されるパンフレット、国際センターのホームページ等で日程を告知します。4月中旬ごろに説明会も開催しますので、ぜひご参加ください。海外留学や就職活動を視野に入れた各種外国語検定試験の受験に向けて、語学セミナーへの参加をぜひ一度ご検討ください。※掲載されている各セミナーの内容は、今後予告なく変更となる場合がございますので、ご了承ください。

★詳しくは、国際センター事務室までお問い合わせください。  
TEL:03-3418-9196

## 2026年度 学費等納入のお知らせ

1. 学費等は左表期限までに大学所定振込依頼書(学費等振込依頼書)をご利用のうえ、金融機関より納入してください。  
※金融機関窓口における10万円を超える現金の振込みの場合、公的な本人確認書類の提示を求められることがあります。  
※いったん納入された学費等はお返ししません。
2. ATM・インターネットバンキングにて納入する場合、依頼人名として大学所定振込依頼書に記載されている「振込依頼人コード(10桁)」及び「学生氏名」を必ず入力し、振込金額を間違わないよう納入してください。なお、納入時に不備がある場合、学生の特定及び入金確認ができないため、納入控え等の提出をお願いする場合があります。
3. 大学所定振込依頼書は、4月上旬ごろに「年額用」「前期用」を保証人住所へ送付します。大学所定振込依頼書を紛失した場合、財務部までご連絡ください。
4. 分割納入を選択した場合、8月中旬ごろに「後期用」振込依頼書を送付します。後期分の納入は、後期用振込依頼書到着日からとなります。
5. 授業料・施設設備資金・教育充実費・実験実習料・教育後援会費は、年額の2分の1に分割し、前期分・後期分として納入することが可能です。学費等の内訳詳細は、大学ホームページ(ホーム)・学生生活・就職↓学費等を参照してください。

年額		納入期限
前期分	4月20日(月)	
後期分	9月24日(木)	

## リヨン・カトリック大学 フランス語セミナー

リヨン・カトリック大学は、フランス第二の都市であり、古くから絹織物や美食で知られるリヨンの中心部に位置する伝統ある大学です。ローマ時代からの歴史が息づく街の文化に触れ、都会的で洗練された環境の中で生活しながら、フランス語を学習します。

- 日程：2026年8月1日～8月28日
- 内容：フランス語授業・観光
- 参加費：780,000円
- 引率：なし
- (予定額、2026年度初実施)
- 定員：15人
- 宿泊：学寮4週間

## 淡江大学 中国語セミナー

台湾のベニスといわれる淡水にある淡江大学で中国語を学びます。学生寮に滞在し、毎日ネイティブ教員による中国語の授業を受けながら、文化体験や台北市内などへの小旅行も行います。

- 日程：2026年8月1日～8月23日
- 参加費：271,000円
- (2025年度実施額、別途燃油サーチャージ13,500円)
- 定員：15人
- 宿泊：学寮3週間
- 内容：中国語授業・台湾文化講義・観光
- 引率：なし

## マルティン・ルター大学 ドイツ語セミナー

マルティン・ルター大学は、かの有名な神学者、マルティン・ルターが宗教改革を始めた場所であるヴィッテンベルクにある大学です。

4技能を集中的に鍛えるドイツ語授業に加え、エクスカージョンや豊富な放課後プログラムが用意されているのも本セミナーの大きな魅力となっています。

- 日程：2026年8月1日～8月28日
- 内容：ドイツ語授業・観光
- 参加費：682,000円
- 引率：なし
- (2025年度実施額)
- 定員：7人
- 宿泊：ホームステイ4週間

## オックスフォード大学 英語セミナー

世界的な名門大学であるオックスフォード大学にて行われる英語セミナーであり、ロールプレイに基づいたスピーキングを中心とした英語によるコミュニケーション能力を育成するプログラムです。毎週金曜日は、オックスフォード大学の現役学生が課外アクティビティをサポートします。

- 日程：2026年8月1日～8月23日
- 内容：英語授業・イギリス文化講義・観光
- 参加費：1,168,000円
- 引率：なし
- (2025年度実施額)
- 定員：20人
- 宿泊：学寮3週間

6. 納入期限までに納入できない特別な事情がある場合、納入期限を延期することができますので、財務部までご連絡のうえ、所定の「学費等延納願」を4月20日(月)までに提出してください。学生及び保証人の署名捺印が必要となります。

7. 修学支援新制度(多子世帯含む)の授業料等減免対象者の振込依頼書発送時期及び納入期限は異なります。前期・後期それぞれ支援区分の見直しが発生する可能性があるため、年額でのお振込みはお控えください。

### ■ 通年休学に関する費用(在籍料)の減額について

次に記載するすべての手続を完了した場合に限り、通年休学に関する費用(在籍料)が10万5千円(教育後援会費前期分5千円を含む)となります。

① 前期授業開始日の前日(2026年度は4月10日)までに教務部窓口へ通年休学願を提出(休学願には保証人の署名捺印が必要)

② 財務部窓口で通年休学減額者用在籍料納入案内を受領

③ 通年休学減額者用在籍料納入案内に基づき、4月20日までに在籍料を納入

これらの手続を各期日までに完了しない場合、減額適用外となり、在籍料として前期分学費等を納入することになりますので、ご注意ください。

※法科大学院生は4月2日までに通年休学願を提出してください。なお、法科大学院の9月入学者は、原則、在籍料減額の適用外となります。

通年休学に関する相談窓口は、教務部学籍係①窓口(大学院生は各担当窓口)、在籍料に関する相談窓口は財務部となりますので、詳細は各部署で確認してください。

### ★お問い合わせ先 財務部学費係

TEL 03-3418-9076  
FAX 03-3418-9071

# 4年間を振り返る

教育後援会には、執行部のほかに総務部、厚生部、文化部があります。ご子女の大学入学を機に委員となり、それぞれの活動にご尽力いただいた各部長から、委員活動を振り返った感想を寄せていただきました。



全日本大学駅伝応援

## あつという間の貴重な体験



教育後援会  
総務部 部長  
今村 裕

私は、息子の駒澤大学入学を機に、2年次から3年間教育後援会の活動に参加させていただきました。妻の勧めもあり、息子の学生生活に関われる最後の機会にと二人で参加することにしたのも、ついこの間のことのように思えます。以前、田園都市線沿線に住んでいたこともあり、駒澤大学周辺に馴染みがあったことも参加するきっかけとなりました。

駒澤大学といえば、やはり箱根駅伝の常連、強豪との印象で、箱根駅伝の応援を担当する厚生部も魅力的でしたが、体力に自信もなくインドアな性格から総務部を希望して、その希望どおり、総務部として活動を始めました。総務部の活動は、主に駒澤大学の学生

の親御さん方と大学側をつなぐイベントの運営支援です。入学式での写真撮影ブースの運営(4月)、定期総会の運営(5月)、教育懇談会東京会場の運営(7月)、そして、最大のイベントとなる新年賀詞交歓会の企画、運営(1月)を担当します。

教育後援会の活動を進めていく中で、忙しいながらも、同じ大学の親御さん方と一緒にイベントに参加するうちに、一種のサークル活動のような気分を味わいました。委員でいることで、総務部担当以外の活動にも多く参加させていただきました。箱根駅伝の応援や、歓迎会や忘年会をはじめとする懇親会もあり、本場に大学サークルのようでした。

改めて、この3年間の教育後援会での活動を通して、貴重な経験を積ませていただきました。また、多くの委員の方々、同じ大学の学生の親御さん方と活動した時間は私の財産の一つとなりました。教育後援会の運営委員や事務局の方々、大学教職員の方々をはじめ、教育後援会を通じて、そして総務部での活動を通じてできたご縁や、多くの貴重な時間と体験に大変感謝しています。これからも、駒澤大学教育後援会が、大学と親をつなぎながら、学生をしっかりサポートしていくことを確信しています。3年間、ありがとうございました。



教育後援会  
厚生部 部長

## 秋永 幹夫

### もう一度、大学生活

あっとという間の4年間でした。思い起こせば、1通のはがきが始まりでした。大学のPTAみたいなものかな？ 駒澤大学だから、駅伝の応援とかできるのかな？ そんなことを思いながら、自宅からは遠いですが、やってみようかと夫婦二人で応募しました。

何も分からず言われたままの委員でした。先輩方をはじめ、学生の皆さんの一生懸命な姿勢に感化されました。お恥ずかしい話、大学にまともに通っていません。なかつた私は、駒澤大学の学生の姿を見て、自分も4年間で何かつかみたいなと思うようになり、活動させてくださいました。

厚生部では年間を通じたサークル応援、委員研修会を主に担当させていたです。陸上部、野球部の応援に加

え、今年度は新たにバレーボール、アメリカンフットボール、バスケットボール等の応援に行きました。サークル応援といえ、ブルーベガサスの皆さんの応援ぶりに最初はビックリしましたが、今では一緒に声をあげて応援するようになっていきました。天馬祭では各部・サークルの皆さんがブルーベガサスを応援する姿に感動しました。

夏季委員研修会では、駒澤お笑い集団ナイフとフォークさんと折り紙サークル折施さんの活動報告、実演体験等を行っていただきました。今年度の一泊参禅研修会は福井県の永平寺にて開催し、青森県から福岡県まで多くの方にお越しいただき交流を持つことができました。いつもご協力くださる永平寺の皆さまへの感謝の気持ちを持ちながら、坐禅を組ませていただきました。

こうしてあっとという間に4年間が過ぎました。皆様も機会がありましたら、教育後援会の委員として、学生の皆さんと駒澤大学を盛り上げていっていただけたらうれしいです。

最後になりますが、一緒に厚生部を盛り上げてくださった委員の皆さん、ありがとうございました。そして活動を支えていただいた事務局・学生支援センターの皆さん、ありがとうございます。駒澤大学学生の皆さんの輝かしい前途と、ご家族の皆様のご多幸を祈念し、今後とも駒澤大学を応援させていただきます。



教育後援会  
文化部 部長

## 関 安則

### 文化部をお勧めします

教育後援会への入会は、妻からの何げない会話がきっかけでした。正直面倒くさいなと思いましたが、断ると妻との仲がもつと面倒くさくなるので、応諾しました。

1年目はコロナ禍明けの影響があり、卒業された委員の方が多数、歓迎会や忘年会に参加されていて、諸先輩方がわが物顔で盛り上がっているの、渋々参加している私は、若干居心地の悪さを感じたものでした。

2年目に交流委員を務めたことで、状況が変わりました。10回以上の打ち合わせを行い、メンバーで力を合わせて非常に盛大なボウリング大会を開催することができました。皆さんが優しいので、私のつまらない話で爆笑してくれて、当初の居心地の悪さが完全に消え

ました。  
3年目、4年目と後援会活動の沼に浸かることで、私は1年目に見た諸先輩のように、わが物顔で盛り上がるおじさんになりました。

文化部の活動は、この会報を作るのがメインで他部と比べて地味ですが一番楽しい部だと思います。第二にサークル取材(陸上競技部など対象外の部あり)で学生と直接交流できることです。練習を見たり、活動の説明を受けたり、30分〜1時間、学生と触れ合う、貴重な経験ができました。

第二に、取材後の反省会を含め、飲み会を頻繁に開催できることです。職場の人とは語れない内容も、後援会内では自由に話せます。会報ごとに2回の校正と3回の取材をするので、歓迎会等を含めて、都合18回もできるのです。

第三に、気軽に後援会のイベントに参加できることです。委員研修、賀詞交歓会などに責任を負わずに参加して、参加するだけで感謝されるのですから、楽しいだけです。

このように楽しい経験をできたのも、活動を支えてくださった事務局や学生支援センターの皆様、文化部はもちろん、教育後援会のすべての皆様のおかげです。深く感謝申し上げます。そしてこれからも駒澤大学を応援してまいります。

# 一泊参禅研修会に参加して



教育後援会  
厚生部  
姫浦 尊

## 大人の「修行体験」が くれたもの

令和7年11月22日から23日にかけて、教育後援会の一泊参禅研修会に参加しました。

永平寺と總持寺で隔年開催されるこの研修ですが、昨年の總持寺研修に参加し、素晴らしかったため、今年の永平寺も楽しみにしていました。永平寺へ行くと職場で話すと、「福井の永平寺ね」「ゆく年くる年の場所だよ」と、誰もが知っている名刹であることを改めて感じました。

ただ、開催時期が紅葉と蟹の最盛期に重なることに気づいたのは出発2週間前。北陸新幹線の行きの便は満席で、慌てて名古屋経由の東海道新幹線を確認し、何とか参加できました。もう少し手配が遅れていたかもしません。

当日は無事に福井駅へ到着し、直

通バスで永平寺へ。男性の宿泊は大部屋で、私は十七人部屋。全国から参加者が集まっており、自己紹介だけでもお父さん方の多様な背景が伝わります。特に陸上競技部の駅伝選手のお父さんと親しくなれたことは、今回の研修の思いがけない喜びでした。

記念撮影、開講式、入浴と続きませんが、お風呂はホテルのように快適。薬石(夕食)では作法を学びながらいただきます。周囲と同じペースで食べることが作法とされており、普段自分がどれだけ早食いなのかを痛感しました。夕食後は坐禅、法話、永平寺紹介の映画と続き、心静かに一日を締めくくります。

翌朝は3時50分起床。昨年は同室のいびきで眠れなかった記憶があり、今年も就寝の21時早々に「サウンド」が聞こえて焦りましたが、結果的には



心地よい緊張感の中で朝を迎えました。早朝の坐禅の後は諸堂拝観。広大な敷地に点在する建物はどれも荘厳で、修行の場としての厳しさと美しさが共存しています。總持寺とはまた異なる魅力があり、今回最も心に残った時間でした。

朝食後、閉講式を経て9時頃に解散。三連休ということもあり北陸観光へ向かう方も多くいましたが、私は後援会委員の反省会(懇親会)に参加しました。福井の日本酒があまりに美味しく、帰りの新幹線ではつい眠り込んでしまい、終点の東京駅で清掃員の方に起こされてしまったという、

これもまた良い思い出となりました。参禅研修会は、駒澤大学の学生の保護者に与えられた貴重な機会です。日常から離れ、心を整え、全国の保護者の方々と交流できる時間は、私たちにとって大きな財産になります。

禅の精神に触れ、大学のルーツを体感できること。大部屋での宿泊や食事を通じて自然と仲間ができること。早寝早起きの生活で心身がリセットされること。これらは父母にとって大きなメリットです。

まだ参加されたことのない方には、ぜひ一度体験していただきたいと思えます。きっと想像以上の学びと出会いが待っています。



# 令和8年 新年賀詞交歓会

寿 新 年 賀 詞 交 歓 会

陶澤大学教育後援会



## 令和8年 新年賀詞交歓会報告

### 笑顔と交流が広がる、新たな年の幕開け



令和8年1月31日、ホテルニューオータにて新年賀詞交歓会が開催されました。私たち総務部は部長の今村さんを中心に、会場準備から当日の運営までを担当し、多くの大学関係者、ご父母、同窓会、陶澤大学教育後援会関係者の皆さまにご参加いただきました。全国各地から総勢三百一人が一堂に会し、新たな年の始まりにふさわしい活気あふれる集いとなりました。久しぶりに再会を喜び合う姿も多く見られ、会場は開会前から温かな雰囲気に包まれていました。

開会にあたり、教育後援会の井垣会長より、学生支援と保護者同士の親睦を柱に全国各地で開催された教育懇談会や支部活動、駅伝応援、参禅研修会などを通じて大学と家庭をつなぐ取り組みをさらに充実させていくとの挨拶がありました。続いて村松学長からは、大学を取り巻く環境の変化と今後の展望、学生の成長を支える教職員の尽力について語られ、参加者は大学の現在と未来を身近に感じながら熱心に耳を傾けていました。

陶澤大学同窓会の服部常任副会長からは、全国各地の同窓会支部活動や奨学金支援、地域社会との連携を通じ、卒業後も母校とのつながりが続いていくことの意義が紹介されました。また、陶澤会の二戸会長からは、卒業生の父母による組織として長年続く奨学金支援活動に触れ、学生の学びを支え続ける取り組みへの理解と参加の呼びかけがありました。

さらに小島理事長からは、長い歴史と伝統を持ちながら発展を続ける陶澤大学の教育環境の素晴らしさが紹介され、今後も大学をより発展させていきたいとの決意が語られました。そして参加者全員で「いやさか！」と声を合わせ、祝宴が華やかに始まりました。

歓談の時間には、大学関係者や教員の方々と直接語り合う姿が各所で見られ、学生生活の様子や学内の取り組みを知る貴重な交流の機会となりました。続くアトラクションでは、陶澤お笑い集団「ナイフとフォーク」による漫才とコントで会場が笑いに包まれ、恒例の福引抽選会では各県支部から寄せられた名産品や豪華賞品に歓声が上がり、大きな盛り上がりを見せました。

そして最後は、応援指導部ブルーベガサスによる迫力ある演技と演奏が披露され、参加者全員の気持ちが一つになったところで校歌斉唱が行われ、感動のうちに会は締めくくられました。

司会は、今年も陶澤大学卒業生であるフリーアナウンサーの加藤響子さんが務められました。落ち着いた進行と温かみのある語り口とともに笑いを誘うアドリブも会場を盛り上げ、会を終始心地よいものにしていました。


本会は、私たち父母が陶澤大学の関係者の方々と直接交流し、大学への理解を深めることのできる貴重な機会です。参加者からは「楽しかった」「参加してよかった」「もっと以前から参加すればよかった」といった声も聞かれました。来年も多くの皆さまとこの場でお会いできることを心より楽しみにしております。



# 令和7年度 教育施設等充実助成金 支援事業のご報告

教育後援会では教育施設等充実助成金の一環として、大学教育並びに学生生活に密着している部門への助成・支援を行っています。いずれも教育後援会会員の貴重な浄財からの支援ですので、永く使えるよう、学生の皆さんには大切に利用してほしいと願っています。

## 令和7年度 教育支援事業一覧

- ① 学内奨学金(学業成績最優秀者奨学金・駒澤大学百周年記念奨学金)資金
- ② ゼミ合宿宿泊費補助
- ③ 家計急変学生に対する一時給付金
- ④ 学生への食育支援事業(100円朝食)
- ⑤ 令和7年度 就活集中セミナー受講費支援
- ⑥ 令和7年度学位記授与式における学位記ファイルの発注(購入費補助)
- ⑦ スポーツ推薦選抜適用サークル学外指導者補助費
- ⑧ スポーツ推薦選抜適用サークル以外の学外指導者補助費
- ⑨ 「駒Dining」夜間営業による  
玉川キャンパス利用サークル所属学生への食育支援事業
- ⑩ 駒澤大学カラダスマイルプログラム  
(食支援プロジェクト・野菜摂取量測定・サラダバー・ベジ選手権) 
- ⑪ マイボトル対応ウォーターサーバーの運用維持費補助
- ⑫ ランチスペース提供プロジェクトの展開支援
- ⑬ 「オータムフェスティバル2025」ステージ・テント設営(レンタル料補助)
- ⑭ 「TOEFL®対策講座」「IELTS™対策講座」講座受講料補助
- ⑮ 学生団体(サークル)における上級救命講習受講費支援
- ⑯ 学生相談室・学生サロンの環境整備支援
- ⑰ 共用スペースの拡充(学生の居場所確保)支援

駒澤大学  
カラダスマイル  
プログラム



カラダスマイルプログラム  
(食支援プロジェクト)



駒沢キャンパス学生食堂  
[ランチ50円サラダバー]



学位記ファイル



駒沢キャンパス学生食堂  
[ランチ50円サラダバー]



100円朝食



学生団体(サークル)に  
おける上級救命講習



カラダスマイルプログラム  
(食支援プロジェクト)

令和8年度

# 教育懇談会について

## 大学教職員との交流や ご父母同士の懇親の機会に

教育後援会・大学の共催により、全国各地で教育懇談会を開催しております。

教育懇談会は、学生のご父母(保証人)を対象に、大学の近況をご報告するとともに、学業成績や就職などについて教職員と懇談していただくことを目的としています。また、ご父母同士の懇親も深めていただけるイベントです。

詳細については、在校生のご父母(保証人)の皆さま宛に直接ご案内いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。



※令和7年度の様子



【駒澤大学教育後援会ホームページ】

<https://www.komazawa-k.org/>

↑も併せてご覧ください。

令和8年5月頃に情報を掲載予定です。

### 令和8年度 教育懇談会概要

日程	令和8年5月23日～7月5日の土日開催
場所	開催地・日程はホームページをご覧ください。
参加費	無料(食事などは教育後援会でご用意します。)
申込方法	郵送される「ご案内」もしくはホームページをご覧ください。
お問い合わせ	駒澤大学教育後援会事務局 (駒澤大学学生支援センター厚生課内) TEL:03-3418-9060

令和8年度

# 定期総会・駒沢キャンパス構内見学会のご案内

教育後援会定期総会駒沢キャンパス構内見学会を開催いたします。

定期総会は、教育後援会の最高決議機関で、教育後援会の各種事業を知っていただける機会です。ぜひお気軽にご出席ください。

定期総会終了後に、下記の施設において、定期総会にご参加いただいた皆さまを対象とした駒沢キャンパス構内見学会を実施します。



※令和7年度の様子

詳細は駒澤大学教育後援会ホームページ  
<https://www.komazawa-k.org/>  
↑で情報を随時更新していきます。  
多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



### 令和8年度 定期総会・駒沢キャンパス構内見学会概要(予定)

行事	日付	時間	場所：駒沢キャンパス内
定期総会	令和8年5月9日(土)	10:00～(受付9:30～)	記念講堂
駒沢キャンパス構内見学会		12:00～各施設ごとに設定	図書館・禅文化歴史博物館 坐禅堂(坐禅体験)・学生食堂(学食体験)

※入場無料・全席自由 ※参加方法については、P35イベント申込サイトとイベント参加申込ヘルプサイトのご紹介をご確認ください。

※会場や開催内容について変更となる場合がございます。

アンケートに  
答えて

駒澤大学  
関連グッズを  
抽選で  
5名様  
プレゼント!

駒澤大学教育後援会『会報』第194号はいかがだったでしょうか。今後の誌面編集の参考にさせていただくため、下記アンケートにお答えください。回答されたシートは、郵送もしくは FAX で駒澤大学教育後援会事務局までお送りください。皆様の率直なご意見、ご要望をお待ちしています(5月15日必着)。

Q1. おもしろかった記事の番号をお書きください(複数回答可)。

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| <b>1</b> 表紙について   | <b>8</b> オータムフェスティバルを終えて        |
| <b>2</b> 《巻頭挨拶》<br>小島 泰道(学校法人駒澤大学 理事長)<br>井垣 達也(駒澤大学教育後援会 会長) | <b>9</b> 特集④ 学生たちを静かに見守る百周年記念講堂 |
| <b>3</b> 特集① 駅伝 [箱根・全日本]                                      | <b>10</b> 大学だより                 |
| <b>4</b> 特別企画 二十歳の抱負  | <b>11</b> 父母寄稿・教育後援会だより         |
| <b>5</b> 特集② サークル紹介<br>ハンドボール部/釣りクラブ                          |                                 |
| <b>6</b> 特別企画 地方で活躍する駒大卒業生の皆さん                                |                                 |
| <b>7</b> 特集③ 学部・学科紹介 文学部 歴史学科                                 |                                 |

回答欄

Q2. 学部の教育内容や学生生活の状況、紹介してほしい学部・学科、ゼミなど、特集で取り上げてほしいテーマをお書きください。

Q3. 駒澤大学教育後援会『会報』に関するご感想、またお気づきの点がございましたらお書きください。

キリトリせん

プレゼントを希望される方は下記に住所、氏名をご記入ください。ご協力ありがとうございました。

2次元コードでも回答できます

〒	
ご住所	
ご氏名	

郵送送り先

〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢1-23-1  
駒澤大学教育後援会事務局 宛



FAX送り先

FAX 03-3418-8491

ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送にのみ使用させていただきます。お預かりした個人情報は駒澤大学教育後援会事務局が責任をもって管理します。

お問い合わせ：TEL 03-3418-9060

娘の入学前に後援会のお知らせが妙に気に入り、1人では不安なので、主人を巻きこんで入会しました。その時の自分の判断は間違っていないでした。それは、こんなに楽しい時間を皆様と過ごせたからです。

文化部に所属したので、会報作成のみと思いきや、箱根駅伝の応援にも参加できました。後援会に関わるまでは、お正月に放送されるものという認識しかありませんでしたが、今では応援も楽しい活動の一つです。もう今後こんなに楽しい活動はないと思います。

オバさんになってもたくさんの新しい出会いがありました。今後新しいステージで、どこでもやっていける自信ができました。そして、いつかは出雲と伊勢神宮で生で応援したいという楽しみもできました。子育てを頑張ったご褒美をもらったと勝手に思っています。皆様、本当にありがとうございました。(K・S)

娘の入学を機に教育後援会へのお誘いを受けて会報誌の活動に関わらせていただきました。早いもので、私の活動も今号で最後となります。

入学当初は新型コロナによる行動制限が少し残っていましたが、その後は緩和され、学生たちの行動範囲も徐々に広がりました。本来の大学生活を大いに楽しんでもらいたいと願ったのは、私だけではないと思います。

さまざまな部活やサークルへの取材では、誰もが自分たちの活動をキラキラした目で語ってくれたのがとても印象的で、学生たちとの接点一つひとつが忘れられない貴重な経験となりました。そして、教育後援会を通じて得られた同世代の仲間とのつながりも、私にとっては大きな財産です。

このような素晴らしい機会をいただけたことに感謝を申し上げますとともに、今後も駒大生の輝かしい未来を心より応援しております。(S・T)

## 令和8年度 駒澤大学教育後援会 年間行事予定のご案内

令和8年度の行事予定は、次の通りです。日程が近くなりましたら、教育後援会ホームページで詳細をご案内いたします。皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

	日程	行事
令和8年	5月9日(土)	定期総会
	5月23日(土)～7月5日(日)	教育懇談会(大学共催)
	7月17日(金)	会報195号発行
	10月12日(月・祝)	出雲全日本大学選抜駅伝競走 応援
	11月1日(日)	全日本大学駅伝対校選手権大会 応援
	11月13日(金)	会報196号発行
令和9年	11月21日(土)・22日(日)	会員研修会 一泊参禅研修会(大本山總持寺)
	1月2日(土)	東京箱根間往復大学駅伝競走 応援
	1月30日(土)	新年賀詞交歓会
	3月23日(火)	会報197号発行

〔備考〕年間行事予定は、変更する場合がございます。各行事へのご案内は、保証人住所へ送付する会報またはお便りに掲載いたします。その他、最新情報は、教育後援会ホームページをご参照ください。

会報194号 令和8年3月23日発行  
編集兼発行 駒澤大学教育後援会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学学生支援センター内 駒澤大学教育後援会事務局  
TEL: 03-3418-9060 FAX: 03-3418-8491

# 応援します 輝く今を

## 駒澤大学教育後援会

駒澤大学 <https://www.komazawa-u.ac.jp/> 駒澤大学教育後援会 <https://www.komazawa-k.org/>

### お問い合わせ先

日本学生支援機構  
(JASSO) 奨学金について  
学生支援センター内  
03-3418-9557

奨学金の  
相談について  
学生支援センター  
厚生課厚生2係  
03-3418-9058

学業成績等の  
相談について  
教務部教務1係  
03-3418-9118

留学について  
国際センター  
03-3418-9196

学費について  
財務部学費係  
03-3418-9076

図書館について  
図書館情報サービス係  
03-3418-9165

保証人  
住所変更について  
教務部学籍係  
03-3418-9121

就職関係について  
キャリアセンター  
03-3418-9092